

令和6年度 岡山県文化振興審議会

日時：令和7年2月13日（木）

14時～15時30分

場所：ルネスホール ワークルーム

1 開 会

2 議 事

- ・ 令和6年度県実施主要事業について
- ・ おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)2023改定版の進捗状況について
- ・ 令和7年度重点事業について
- ・ おかやま文化振興ビジョンの改訂について

3 その他

- ・ フリーディスカッション

4 閉 会

岡山県文化振興審議会委員

任期：R6.4.1～R8.3.31

氏 名	役 職 名
大原 謙一郎	公益財団法人大原美術館名誉館長
加納 容子	勝山文化往来館ひしお副理事長
神崎 宣武	民俗学者
柴田 奈美	岡山県俳人協会会長
竹内 京子	くらしき作陽大学教授音楽学部長
谷一 尚	林原美術館館長
二階堂 裕子	ノートルダム清心女子大学文学部教授
松田 正己	山陽新聞社代表取締役社長
森山 知己	倉敷芸術科学大学客員教授

欠席

敬称略 50音順

岡山県文化振興審議会規則

平成十八年三月二十四日
岡山県規則第五十一号

(趣旨)

第一条 この規則は、岡山県附属機関条例(昭和二十七年岡山県条例第九十二号)第四条の規定により、岡山県文化振興審議会(以下「審議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第二条 審議会は、次の事項を所掌する。

- 一 岡山県文化振興基本条例(平成十八年岡山県条例第十五号。以下「文化振興基本条例」という。)第八条の規定により知事から諮問された事項に関する調査審議及び意見の具申
- 二 その他文化振興基本条例の施行に関する意見の具申

(組織)

第三条 審議会は、委員二十名以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験を有する者のうちから知事が任命する。

(委員の任期)

第四条 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、任期満了後であっても、新たに委員が任命されるまでは、その職務を行うものとする。
- 3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第五条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

- 2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第六条 審議会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

- 2 審議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 審議会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(専門部会)

第七条 審議会は、その所掌事項の一部を分掌させるため、専門部会を置くことができる。

(委員以外の者の意見の陳述)

第八条 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に審議会の会議に出席して意見を述べさせ、又は説明させることができる。

(庶務)

第九条 審議会の庶務は、環境文化部文化振興課において処理する。

(その他)

第十条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

附 則(平成二二年規則第二七号)抄

(施行期日)

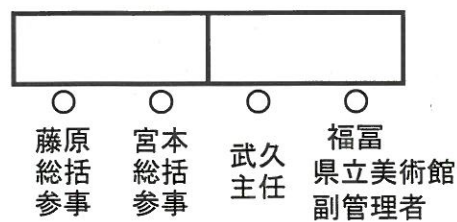
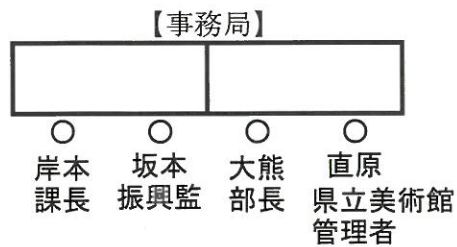
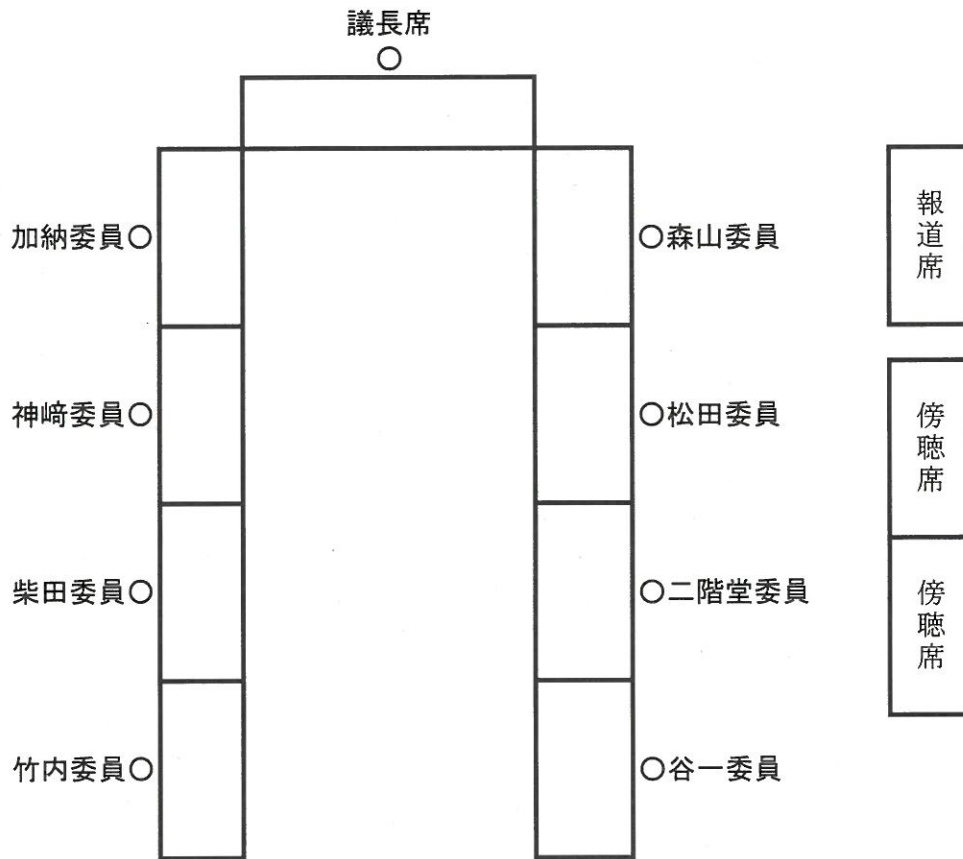
- 1 この規則は、平成二十二年四月一日から施行する。

令和6年度 岡山県文化振興審議会 配席図

日時：令和7年2月13日（木）

14:00～15:30

場所：ルネスホール ワークルーム



入口

令和6年度 岡山県文化振興審議会

配 付 資 料

日時 令和7(2025)年2月13日(木)

14時～15時30分

場所 ルネスホール ワークルーム

1 令和6年度県実施主要事業

(1) アートプロジェクトおかやま推進事業

① おかやまAIR地域協働事業 2

② 次世代おかやまアーティスト活動促進事業 4

③ アートマネジメント人材育成・地域定着支援事業 6

④ オーケストラの鑑賞機会の提供 9

(2) おかやま文化芸術アソシエイツ事業 10

(3) 学校部活動の地域連携、地域移行 14

(4) 県立美術館事業 15

2 おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)2023改定版の進捗状況 19

3 令和7年度重点事業 23

おかやま A I R 地域協働事業

事業の趣旨・目的	地域住民が優れた芸術文化に身近に接する機会を提供するとともに、地域の魅力をアートの視点で掘り起こし、国内外へ発信することを目的とし、国内外のアーティスト(美術家、音楽家、舞踊家など)を招へいし、滞在制作を行う A I R (Artist In Residence) に併せて、地域との協働による取組を行うことで、地域にアートを取り入れ、多様な視点から岡山ならではの文化活動や創造活動などを促進する。
事業概要	1 笠岡諸島アートブリッジ2024 ズグラッフィート白石島 (1) 実施団体 特定非営利活動法人ハートアートリンク (2) 鑑賞者数 800名 (3) 参加アーティスト(1名) ラドスワフ・プレディギェル (4) 概要 アーティストが島に滞在しながら島民と交流を深め、島の風景・白石踊・自然や文化などをモチーフとし、白と黒の漆喰を使用した欧州の装飾技法である「ズグラッフィート」による壁画を制作した。また、公開制作日を設け、ズグラッフィートを体験できるワークショップを実施した。 完成お披露目会として、島にゆかりのある音楽家とダンサーによるライブ・パフォーマンスやアーティストを囲んだトーク等を行い、島内外の人々で壁画の完成を祝うとともに交流を深めた。 会期：令和6年 6月19日～10月21日(滞在制作) 8月20日、21日、10月20日(公開制作) 11月10日(壁画完成セレモニー) 会場：白石島 松浦邸、片山邸、公民館 2 陶彫硯美 - ポーランドからの贈り物 - (1) 実施団体 公益財団法人瀬戸内市歴史まちづくり財団 (2) 参加アーティスト(2名) スタニスワフ・ブラッフ、ベロニカ・スルマ (3) 概要 瀬戸内市の歴史的・文化的資源の一つである国指定史跡・寒風古窯跡群からの出土品にある硯に焦点を当て、陶芸の造形制作から、実際にその硯を使った平面制作への応用、展示を行った。 滞在期間中、地域住民や市内小学生等を対象にアーティストトークやワークショップを行い、お互いの歴史文化の理解や交流を深めた。 会期：令和6年 9月18日～10月17日(滞在制作、ワークショップ等) 11月23日～令和7年1月26日(作品巡回展) 会場：寒風陶芸会館、瀬戸内市民図書館、牛窓北小学校 ほか

A man with a beard and glasses is shown from the side, focused on drawing on a large sheet of paper. He is using a blue marker to draw intricate, organic patterns that resemble leaves or veins. The paper is held up by a wooden frame, and the background shows a glimpse of green foliage outside.



陶彫

現美

「陶アーティスト」として陶芸セラピーセッションを主とする暮らしの芸術家プロジェクト

ポーランドからの陶物作家
 陶物作家として活躍中
 陶物作家として活躍中

アーティストの作品展
 2024.9.18 Wed ~ 1Q.17 Thu

Weronika Berna
ベロニカ・ベルナ

ポーランドからアーティストが来日!

書在中に制作した陶器で事を綴って、自由^{とろ}に字を書いたり、絵を描いたりしてみよう!

Elizabeth Brach
エリザベツ・ブラッ

ポーランドからアーティストが来日!

書在中に制作した陶器で事を綴って、自由^{とろ}に字を書いたり、絵を描いたりしてみよう!

ポーランドからアーティストが来日!

書在中に制作した陶器で事を綴って、自由^{とろ}に字を書いたり、絵を描いたりしてみよう!

9.21 (土)

10.6 (日)

10.13 (日)

アーティストトーク 11:00-15:00
 陶物作家の陶器制作について 交流あり

ドローイングワークショップ 10:00-11:30
 陶物作家の陶器制作について 交流あり (陶物作家)

アーティストトーク 10:00-12:00

ドローイングワークショップ 11:00-15:00
 陶物作家の陶器制作について 交流あり

1Q.5 (土)

10:00-15:00

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり

お申し込み・お問い合わせ

03-5454-5567 / info@sakusaku.com

陶物作家の陶器制作について 交流あり

陶物作家の陶器制作について 交流あり



自己評価	白石島及び瀬戸内市の伝統文化、自然、歴史などの地域資源を活用したアーティスト・イン・レジデンスを行い、地域の魅力をアートの視点で掘り起こす取組ができた。また、公開制作やワークショップを行うことで、地域住民にアートをより身近に感じていただける機会を提供できた。
今後の課題	地域の文化芸術資源を活用したにぎわい創出を図っていくため、事業の必須条件から滞在制作と若手芸術家の起用の条件を外し、文化芸術ならではの意義やポテンシャルを生かしたユニークな事業提案につなげていく。

次世代おかやまアーティスト活動促進事業

事業の趣旨・目的	次世代を担う芸術家を育成するとともに、県民に対して優れた芸術に触れる機会を提供し、県文化の底上げを図ることを目的として、岡山県にゆかりのある芸術家を起用した企画展や舞台などを実施し、活動の機会を創出する。また、併せて若手・新人の芸術家にも活動・発表の機会を提供し、創作活動を支援する。
事業概要	1 素材と対話する 張慶南＋潮嘉子 (1) 実施団体 公益財団法人新見美術振興財団 (2) 鑑賞者数 1, 335名 (3) 参加アーティスト(2名) 張慶南(ガラス作家)、潮嘉子(日本画家) (4) 概要 ガラスで作品を作る張慶南氏と日本画を描く潮嘉子氏、古くから工夫を積み重ねて使われてきた素材を用いて、その特性を引き出す制作を行う県内在住の2人による展覧会を開催した。 また、期間中、張慶南氏によるギャラリートークと潮嘉子氏によるライブペインティングを実施した。 会期：令和6年9月17日～10月15日 9月23日(ギャラリートーク) 9月29日、10月6日、13日(ライブペインティング) 会場：新見美術館 2 備前・閑谷 過去から未来への調べ ～薮井佑介 たったひとりのオーケストラ～ (1) 実施団体 エレクトロニック・ミュージック・ラボ実行委員会 (2) 鑑賞者数 312名 (3) 参加アーティスト(2名) 薮井佑介(音楽家)、赤井夕希子(陶芸家) (4) 概要 最先端電子楽器奏者／作曲家の薮井佑介氏がふたつの日本遺産「旧閑谷学校」と「備前焼」をテーマに最先端テクノロジーによる壮大な電子音楽と映像で閑谷の歴史文化を綴るコンサートを実施した。 また、備前焼作家の赤井夕希子氏が制作した旧閑谷学校や自然をモチーフとしたインスタレーション作品も展示し、「音楽」と「陶芸」のコラボレーションを行った。 日時：令和6年10月20日 会場：特別史跡旧閑谷学校講堂前

素材と対話する 張慶南＋潮嘉子



備前・閑谷 過去から未来への調べ ～薮井佑介 たったひとりのオーケストラ～



《事業の評価》

自己評価	新見美術館での展覧会は、作品を展示するだけでなく、ギャラリートークやライブペインティングを実施したことで、作家と会話をしながら、作品の意図するところや制作の過程などを知ることができ、来場者から好評だった。 旧閑谷学校でのコンサートは、備前焼のルーツを追った薮井佑介氏のドキュメント映像やトークと共に展開し、来場者からも新たな発見や感動をもって両アーティストや地域文化への理解・関心を高めたとの評価を得た。また、「音楽」と「陶芸」という異ジャンルで活躍中の両アーティストにとっても新たな挑戦・刺激となる活動となり、今後の芸術交流へ発展する可能性も生まれた。
今後の課題	地域の文化芸術資源を活用したにぎわい創出を図っていくため、事業の必須条件から滞在制作と若手芸術家の起用の条件を外し、文化芸術ならではの意義やポテンシャルを生かしたユニークな事業提案につなげていく。

**アートマネジメント人材育成・地域定着支援事業
「アートで地域づくり実践講座」の開催状況**

事業の趣旨・目的	地域の資源を活用し、地域のイメージアップとにぎわい創出につながる文化芸術イベントの企画やコーディネートができる人材を育成し、文化を核とした地域づくりを推進する。
フィールドワーク場所	美咲町
事業概要	1 講師 北島 琢也 ((株)KAMP代表取締役) 岸本 和明 (奈義町現代美術館館長) スミカオリ (ヨノナカ実習室 実習助手 ほか) 2 講座受講申込者数 16名 3 講座修了者数 14名 4 講座の開催(6月8日～1月25日) 全14回+実証イベント 企画の進め方や実際のアートイベントの運営、イベントの広報戦略、効果的な広報物の作成方法などを講座講師、外部講師から学ぶ座学講座に加え、地域の資源や歴史・文化を生かしながら、受講生自らが企画・準備から開催・運営までを実際に経験する文化イベント(実証イベント)を行った。 イベント終了後は、振り返りを行い、講座で学んで知識や経験を基に実際にイベントの企画書の作成を行った。 5 実証イベントの開催(11月23日～24日) 講座の集大成として、受講生自らが企画・準備・開催・運営までを行う実証イベントを開催した。 ・ イベント名 : 融合-YOU GO- 揺らぎの煌めき 未来の種が芽吹く街 ・ 開催場所 : 美咲町生涯学習センター (美咲町原田3100-1) ・ プログラム : 本県ゆかりのアーティストによる作品展示等 地元で活動するアーティスト・団体によるワークショップ等 ・ 概要 : 美咲町の今をアートによって表現し、美咲町の魅力を発信することを目指し、本県ゆかりの2名のアーティストが空間全体をアート作品として体験するインスタレーションという手法で会場を彩るほか、ワークショップやトークイベントを実施した。 地元で活動するアーティスト・団体によるワークショップや作品展示を実施した。 隣接する美咲町物産センターにおいて、センター主催のキッチンカー等の出店や美咲町社会福祉協議会主催の「みしゃモンカレッジ アート De 食堂」を連携イベントとして同時開催した。 ・ 来場者数 : 300人 6 講座修了生の活動促進 1月に、助成金獲得を目指した実践的な企画立案の講座を行い、活動の促進を図った。

講座(座学、グループワーク、フィールドワーク) 6月8日~1月25日 全14回



予算についての講義



コンセプトについてのグループワーク



実証イベントに向けた作業



実証イベントの詳細検討

実証イベント 11月23日~24日



胡桃澤千晶氏の作品展示



胡桃澤千晶氏のワークショップ
(手作り草花シールでアート体験)

実証イベント 11月23日～24日



明石麻里子氏の作品展示



明石麻里子氏と奈義町現代美術館長の
トークイベント



ワークショップ(百々人形の絵付け)



ワークショップ(クリニカルアート)



己書の作品展示



みしゃモンカレッジ アート De 食堂

事業の評価

自己評価	アートイベント等に関心の高い県民を対象とする講座を開催地自治体と協働して実施し、座学、グループワーク、フィールドワーク等を通じ、人材の育成に取り組んだ。講座は6月から翌年1月まで毎月2回程度開催し、受講生が主体的に考え、取り組むものにできた。 また、実証イベントの実施に当たっては、イベントの企画やマネジメント、アーティストとの交渉、広報、予算管理など、実践的な多くの経験を積むことができた。
今後の課題	講座の実施に当たっては、これまでの経験を生かしながら、受講生がより多くの学びを得られるよう内容のブラッシュアップを図り、アートの力を活用した地域づくりを行うことのできる人材をさらに増加させていく必要がある。

オーケストラの鑑賞機会の提供

事業の趣旨・目的	県内の様々な地域において、岡山フィルハーモニック管弦楽団によるオーケストラ公演を実施し、質の高い芸術鑑賞の機会を提供する。
事業概要	【令和6年度実績】 ○笠岡特別公演 日 時：令和7年2月2日（日）14時開演 場 所：笠岡市民会館（笠岡市六番町1-10） 出 演：指揮／出口 大地 トランペット／小林 鴻 曲 目：モーツァルト／ディヴェルティメントK.136 ハイドン／トランペット協奏曲 モーツァルト／アイネ・クライネ・ナハトムジーク ハイドン／交響曲第94番「驚愕」 入 場 料：一般 2,000円、ユース（19歳以下） 1,000円 入場者数：723名  

事業の評価

自己評価	令和元年度から実施している本事業において、過去最高の来場者数であった。また、笠岡市民会館販売分のチケットは完売し、地元の方々に多くご来場いただけた。 笠岡市教育委員会の御協力のもと、笠岡市在住の小中学生を無料で招待する旨のチラシを、学校で配布できたことが来場につながったと考えている（招待者92名）。今回の実績をもとに、来年度以降も若者への広報に力を入れつつ、幅広い世代の方々に芸術鑑賞の場を提供してまいりたい。
今後の課題	多くの方々に芸術鑑賞の機会を提供できるよう、より効果的な広報等に取り組みたい。

おかやま文化芸術アソシエツ事業

事業の趣旨・目標

公益社団法人岡山県文化連盟に「おかやま文化芸術アソシエツ」を設置し、文化芸術に関する相談支援、情報発信、人材育成などに継続的に取り組むことにより、芸術家や文化団体等による文化活動の促進を図る。

事業概要

1 専門人材の配置

【プログラム・コーディネーター 1名】

・金孝妍/アーティスト

【プログラム・オフィサー 1名（兼務）】

・高田佳奈/公益社団法人岡山県文化連盟主任、認定ファンドレイザー

【エグゼクティブ・アドバイザー 1名】

・大月ヒロ子/ミュージアム・エデュケーション・プランナー

【アドバイザー 4名】

アドバイザー（非常勤） 杉浦幹男（インディペンデント・ディレクター）
 アドバイザー（非常勤） 朝倉由希（文化政策研究者、公立小松大学准教授）
 アドバイザー（非常勤） 斎藤 努（舞台制作者、プロデューサー）
 アドバイザー（非常勤） 森山知己（日本画家、倉敷芸術科学大学客員教授）

2 主な事業・実績

（1）ポータルサイト「マイニングおかやま」

- ・県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース「文化・芸術・芸事名鑑」の充実に努めた。登録数288件（令和6年12月現在）
- ・岡山県を拠点に活動するアーティストを地域の貴重な文化資源として可視化し、アーティスト活動の活性化に繋げていただくためのプラットフォーム「マイニングおかやま」を活用し、おかやま文化芸術活動相談窓口に寄せられた相談の中から、公益性が高く文化芸術の社会的価値を具現化するに相応しい事業をモデル事業として17件（令和6年12月現在）採択した。

ポータルサイト「マイニングおかやま」

（主なコンテンツ）

コンテンツメニュー	内 容
文化芸術 マイニングリレー	岡山県ゆかりの文化芸術関係者を、リレー形式のインタビューで紹介
クリエイション サイウキ 再遊記	県内アーティストを中心とした作品展等のアーカイブ集
文化・芸術・ ゲイコ 芸事名鑑	県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース



（モデル事業）

- ・部活動の地域移行を見据えて、公立中学校の吹奏楽部で指導者のいない楽器パートについて、主に初心者を対象に指導をしてくれるアーティストをマッチングした。
- ・支援学校の児童・生徒の特性に応じた文化芸術活動についての相談及び提案依頼を受けて、児童・生徒の障害の程度に合った体験活動を提案で

事業概要

(2) 文化団体等の活動支援

文化団体等の活動に対する助言、支援を行った。

- 文化団体等からの相談件数・・・37件
(令和6年4月1日～令和6年12月31日現在)

＜主な相談内容＞

- 専門大学で舞台を専攻する現役大学生から、卒業後の仕事や就活に関する相談
- 元芸術大学の教授が、自分のアトリエの活用方法について、遺贈も視野に入れた相談
- アソシエイツの取組についてロータリークラブでの卓話の依頼
- 県庁他部署からプロジェクト趣旨に合致する文化事業実施団体の紹介依頼
- 文化芸術等に関するワンストップ相談窓口「おかやま文化芸術活動相談窓口」の運営



(3) 県内の文化芸術資源を発掘、再評価、活用するための調査事業

ア おかやま県民文化祭「これがOKAYAMA!プログラム」

地域の文化芸術資源を活用し、新たな価値の再発見と楽しみ方を提案する「これがOKAYAMA!プログラム」について、金孝妍氏の企画・監修のもと、文化芸術アソシエイツが運営・実施した。

「備中国の色につながる風土」をテーマに、地域に根付いた価値観や考え方、文化を映し出す様々な「色」に注目し、そこに関係するヒト・コト・場所の紹介や、県文祭ならではの特別ワークショップを企画実施した。

備中国の色につながる風土

- 特別ワークショップ 6プログラム

「児島の青色デニム再生フェルトを使ってコースターを作ってみよう！」(10/27)

「真っ赤な高梁市吹屋とうがらしとベンガラで染め物体験」(11/10)

「あなたの知らない石灰の世界 採石場見学とズグラフフィート体験」(11/13) など

- 県民調査事業「あなたの思う、備中地域といえば、この色!!」を教えてください。」

【備中国の色につながる風土 チラシ】

A4サイズ 15,000部、フルカラー



イ「文化芸術交流実験室」(トークセッション&ワークショップ)

文化の各分野はもとより、福祉や教育、まちづくりなど様々な分野との交流を通じて文化資源を掘り起こすとともに、県内の人材や文化資源の横断的な出会いの場を創出する「文化交流実験室」を開催した。

平成29年度～令和6年度で50回の実験室を開催し、県内各地で様々な分野を横断する交流を通じて、新たな文化資源を発掘してきた。

コロナ禍では対面での実験室開催が難しかったため、YouTubeを利用したオンラインコンテンツ「訪問実験室」シリーズを開始し、現在までに7コンテンツを制作。

令和6年12月時点で合計4,176回視聴されている。



実験室46

YouTube配信コンテンツ

訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場⑦

「支え合う地域の文化 箏づくりの現場から」

協力：京橋関屋琴三絃店 石村勝治

素材：県内で唯一、箏（十三絃）を制作する箏三絃司の箏制作工程と学校出前講座の紹介

(講師敬称略)



実験室47

(講師敬称略)

10/26「建築探偵団 其の七『門前町・金光』」

講師：石田尚昭（建築・地域文化資源活性化研究会代表）
西 規雄（大谷地区元気いっぱいまちづくり協議会）

場 所：浅口市金光町大谷周辺

参加者：12名



実験室48

11/16「『民藝』ってなんだろう？岡山ものづくり」

講師：須浪隆貴（須浪亨商店5代目）
軸原ヨウスケ（デザイナー）
柳沢秀行（倉敷民藝館館長補佐）

場 所：倉敷民藝館

参加者：29名



実験室49

12/14「子どもの問いが導く世界

：フラーと共に考える未来のヒント」

講師：芹沢高志（アートディレクター、翻訳家）

場 所：奉還町ユースセンター

参加者：16名

ウ 公式YouTubeチャンネルおかやまカルチャー・ヴィ

「楽しいが見える！」をコンセプトに、文化連盟会員が作成する様々な動画コンテンツや、県内で文化芸術活動を行う方が自ずから撮影した動画を配信する場として、YouTube公式チャンネルをオープンした。

現在までに53本の動画を公開し、県内の様々な文化芸術活動の様子を伝えている。

配信は不定期だが、文化芸術交流実験室も一部配信で実施するなど、おかやまの文化芸術の“楽しい”を紹介するとともに、デジタルアーカイブの役割も担う。



訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場 vol.7「支え合う地域の文化...

413 回視聴・8 か月前



アートマネジメントオンラインセミナー「地域とアートプロジェク...

106 回視聴・9 か月前



訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場 vol.6「プロによるプロのた...

758 回視聴・1 年前

(4) 文化活動に係る研究会、勉強会等

・「アートマネジメント研修」

地域文化に関する専門職を養成することを念頭に、文化・芸術団体を中から支える職員の育成と意識向上を目的にしているが、オンライン配信と併用することで、一般で興味関心のある層にも広く参加の機会を提供している。オンライン配信後はYouTubeでアーカイブ公開しており、現在までの総視聴回数は774回にのぼる。

事業概要

(講師敬称略)

2/26 アートマネジメント研修⑦

「人口減少時代の地域文化芸術振興に向けて～信州アーツカウンシルの3年間」

講師：野村 政之氏

(信州アーツカウンシル ゼネラルコーディネーター)

内容：過疎化、高齢化、それに伴う担い手・後継者不足など地域は様々な課題を抱え、文化芸術分野でも影響が見え始めている。今回は信州アーツカウンシルのゼネラルコーディネーターを務める野村政之さんを講師に迎え、文化芸術活動に関わる様々な立場の人たちが、どのような心構えで臨んでいくのか、文化芸術ならではの意義やポテンシャルを活かしてどう地域社会の持続的発展に取り組んでいけるのか、これからの地域文化を構想するヒントとなる学び合いの機会とする。

その他

1)各種助成金、補助金の審査、選考

- ・おかやま県民文化祭共催事業文化パワーアップアクション助成の選考
- ・県が実施する「AIR地域協働事業」及び「次世代アーティスト活動促進事業」の選考
- ・公益財団法人福武教育文化振興財団の「教育文化活動助成」の審査
- ・公益財団法人真庭エスパス文化振興財団の「エスパス芸術文化助成」(真庭市)の審査

2)講師、講演等

- ・「アートで地域づくり実践講座」(県事業)での講義(2回)

3)全国アーツカウンシル・ネットワークミーティング

- ・令和4年度から3年間幹事団体
- ・第1回 7/23(火)@東京都千代田区
- ・第2回 9/30(月)@静岡県静岡市
- ・第3回 1/21(火)@Zoom

事業の評価

自己評価	文化芸術等に関するワンストップ相談窓口を通じ、文化団体等からの相談に積極的に応じるなど、文化団体等の活動への支援を行った。 おかやま県民文化祭や文化芸術交流実験室、アートマネジメント研修なども予定どおり開催することができ、県民による文化活動の充実を図るとともに、県内芸術家と県民・地域とのネットワークづくりに努めた。 部活動の地域移行を進めるにあたり、地域クラブ活動の指導を希望する方が登録できるよう、文化関係の人材バンク「マイニングおかやま」のシステム改修を行った。
今後の課題	文化芸術交流実験室などの取組への参加者をさらに増加させていくため、より一層の情報発信に努める。 地域指導者の更なる掘り起こしのためには、「マイニングおかやま」の認知度を高める必要があることから、引き続き、市町村や文化団体に周知を図っていく。

学校部活動の地域連携・地域移行

事業の趣旨・目的	少子化の進行により、学校部活動を従前と同様の体制で運営することが難しくなってきた地域があることから、学校部活動から、学校と地域との連携・協働により整備すべきものである地域クラブ活動へ移行させていくという国により示された方針により、県においてもその取組を進めている。 誰もが身近にスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境づくりを進め、今後の学校部活動の地域連携や新たな地域クラブ活動への移行を見据えた環境整備に向け、今年度、県では、市町村や関係団体等との合同連絡会の開催や文化関係者向けの人材バンクの機能強化を実施した。
事業概要	【令和6年度実績】 1 合同連絡会の開催 (1) 概要 部活動の地域連携・地域移行の動きを見据え、地域における持続可能で多様なスポーツ・文化芸術活動の環境整備に向け、市町村間の情報交換を図るとともに、本県の取組等を共有した。 (2) 実施状況 ・第1回（令和6年6月） 参加者：市町村担当者、スポーツ・文化芸術団体関係者、地域クラブ関係者等 ・第2回（令和6年9月） 参加者：市町村担当者、スポーツ・文化芸術団体関係者、地域クラブ関係者、競技団体・文化芸術団体関係者等 ・第3回（令和7年1月） 参加者：市町村担当者、スポーツ・文化芸術団体関係者、地域クラブ関係者等 2 地域クラブ活動整備状況調査 県内市町村や関係団体等を通じ、競技や文化芸術活動の指導経験や指導者資格を持つ方に限らず、経験者等、今後指導者となり得る人材を含め、調査・把握を進めた。 3 「マイニングおかやま」の機能強化 県文化連盟が運営している「マイニングおかやま」のうち、人材データベース「文化・芸術・芸事名鑑」について、地域クラブ活動対応可否等の項目を追加した。 登録者数208件（令和6年12月現在） 

事業の評価

自己評価	文化芸術活動を行う人材の地域クラブ活動対応可否を情報提供するなど、「マイニングおかやま」の機能強化を実施し、地域クラブ活動の環境整備を進めることができた。また、合同連絡会の開催により県内市町村と情報共有を行うことができた。
今後の課題	今後とも、部活動の地域移行が円滑に進むよう、スポーツ振興課、県教育委員会と連携して、県内の状況についての把握に努める。 地域指導者の更なる掘り起こしや、ポータルサイトの認知度向上のため、引き続き、市町村や文化団体に積極的に周知を図っていく。

県立美術館事業

県民の幅広い文化活動の発展に寄与するため、岡山ゆかりの芸術家の優れた作品を収集・展示するとともに、県内外の優れた芸術活動を紹介する展覧会をはじめ、美術館講座や教育普及など、当館の機能を最大限に活用した事業を展開している。

1 展覧会

《事業の趣旨・目的》

「岡山の美術展」（常設展示）では当館のコレクションを活用した展示等で、県民の誇るべき財産であることを発信するとともに、「特別展」（企画展示）では、古代から現代に至るさまざまな時代や地域の多様なジャンルにおける特色のある優れた作家や作品を紹介している。

《令和6年度実績》

① 岡山の美術展（常設展示）

展 覧 会 名	期 間	観覧者数(人)
第1期	4/19 ～ 5/26	4,125*
第2期 特別展示「波多野華涯展」ほか	7/13 ～ 8/25	10,148
第3期 特別展示「藤原和通展」ほか	9/21 ～ 11/10	8,301
第4期 特別展示「I氏賞受賞作家展」 特別展示「もっと伝統工芸」	11/21 ～ 12/22	3,690
第5期 特集「満谷国四郎」ほか	12/24 ～ 2/2	1,581
計		27,845

*「第1期」には、前年度第9期の期間のうち4/1～7の観覧者数を含む。

② 特別展（企画展示）

展 覧 会 名	期 間	観覧者数(人)
走泥社再考 前衛陶芸が生まれた時代	2/27 ～ 4/7	550*
小林正和とその時代	4/19 ～ 5/26	3,040
北斎と広重 富嶽三十六景への挑戦	6/7 ～ 7/7	40,048
鈴木敏夫とジブリ展	7/9 ～ 9/1	132,787
第75回岡山県美術展覧会	9/4 ～ 9/15	4,983
世界遺産 大シルクロード展	9/16 ～ 11/10	31,985
第71回日本伝統工芸展岡山展	11/21 ～ 12/8	5,183
柚木沙弥郎展	2/14 ～ 3/23	(開催予定)
計		218,576

*「走泥社再考」の観覧者数は令和6年度分を記載

〈参考〉令和7年度 特別展（企画展示）＊予定

展覧会名（仮称）	期 間
ベルエポック美しき時代展	4/11 ～ 5/18
宮城県美術館展	7/ 4 ～ 8/24
瀬戸芸美術館連携プロジェクト 平子雄一展	9/16 ～ 11/ 9
第76回岡山県美術展覧会	9/ 3 ～ 9/14
第72回日本伝統工芸展岡山展	11/13 ～ 11/30
美と祈り展	1/ 9 ～ 3/ 1
Hello Kitty展	3/19 ～ 5/10

2 教育普及事業

《事業の趣旨・目的》

「博物館をあらゆる人に開放する最も有効な方法に関する勧告」（1960年ユネスコの勧告）に基づき、「一人ひとりが文化的で豊かであること」を目指して、社会や市民（citizen）と美術館の接点を形成する活動を行う。

《令和6年度実績》

○ こんにちは美術館事業

社会教育施設として、社会や市民と美術館の接点を形成するため、誰もが楽しむことができる「交流の場」としての教育普及事業の実施に努めた。

- ・ワークショップ（対話型鑑賞等）
- ・美術のタベ（夜間開館日に学芸員による講座開催）



1/11 作家をゲストに迎え
対話型鑑賞会を開催

○ 学校と美術館の連携事業

美術館教育と学校教育が連携することを通して、児童・生徒・学生が、社会や市民、美術館との接点を形成する活動を行った。

- ・みんなの参観日事業（6校参加）
- ・学校団体観覧等の受入れ
- ・学校出前授業・出前研修



12/22～1/13 「みんなの参観日」
屋内広場等で展示

3 県立美術館魅力アップ事業

《事業の趣旨・目的》

県民・観光客への広報の充実、若い世代への来館を促進する取組により、美術館が有する多様な魅力を積極的に発信する。

《令和6年度実績》

・「Drawing Melodies～響き合う表現～2024」

岡山の美術展や県立美術館そのものに興味と関心をもってもらうための事業として、県内高校生や若手音楽家等の協力を仰ぎ、演奏会等を開催した。



10/12 生け花パフォーマンス&プロミュージシャンによる演奏

・「ゲームさんぽと歩く備前焼の世界」

You Tube 等で人気のコンテンツ「ゲームさんぽ」とコラボし、備前焼の魅力を紹介するイベントを開催し、新たな来館者層の開拓を行った。



・ボランティア活動（ボランティア 約100名委嘱）

《主な刊行物》

- ・美術館年報
- ・展覧会図録
- ・美術館ニュース（年4回）
- ・岡山県立美術館紀要

4 岡山県新進美術家育成「I氏賞」事業（事務局：県立美術館）

《事業の趣旨・目的》

将来が期待される岡山県にゆかりのある若手美術家に「I氏賞」を授与し、創作活動の支援を行う。

《令和6年度実績》

令和4年度から事業周期を1年から2年に変更し、1年目に賞の選考や贈呈式、2年目に受賞作家展を実施することとしており、今年度は、第十四回第I氏賞受賞作家展（第13回・第14回奨励賞受賞者各2名）を開催した。

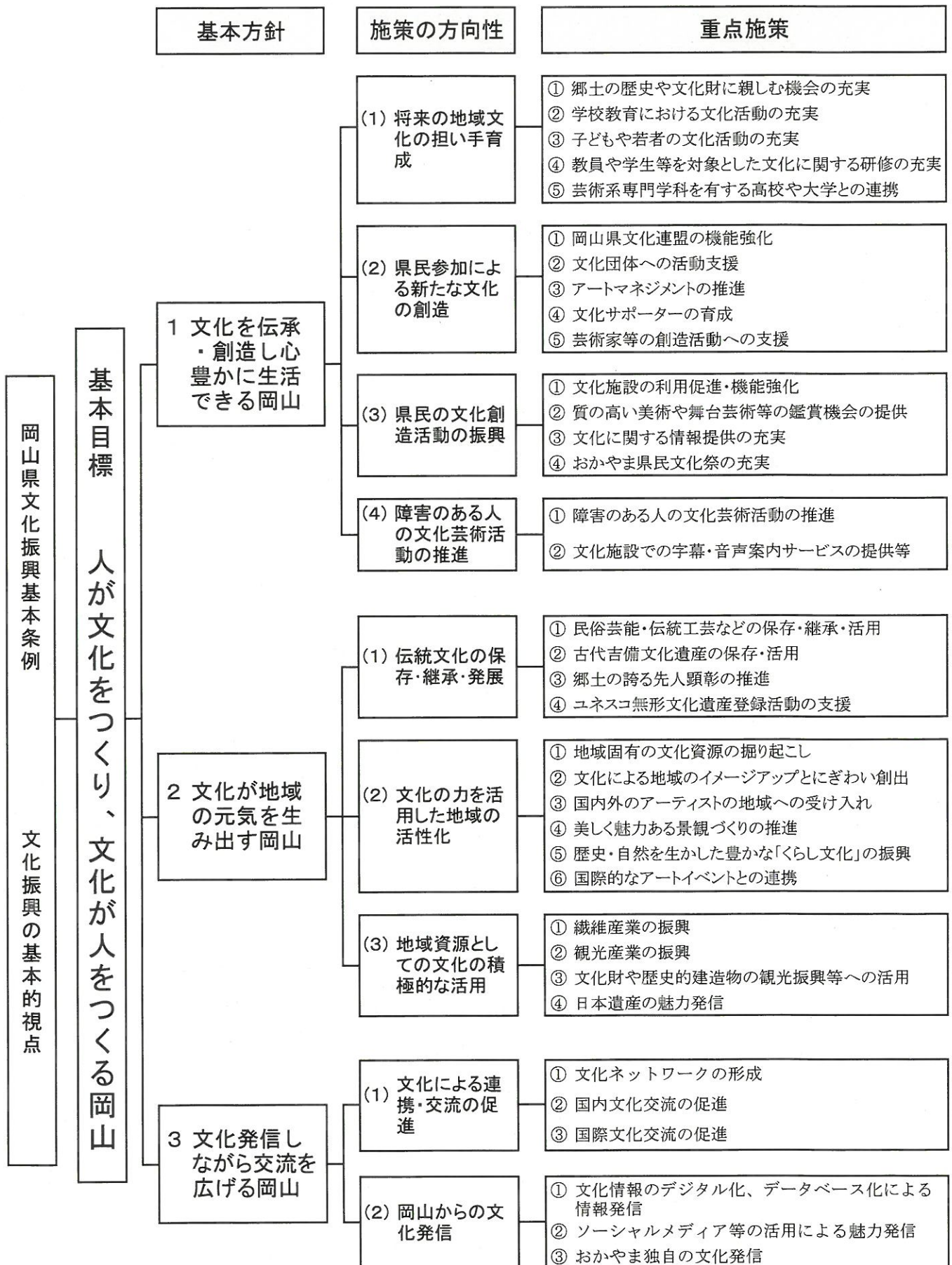


11/21～12/22 I氏賞受賞作家展

5 事業の評価

自己評価	「鈴木敏夫とジブリ展」や「北斎と広重展」等多くの来館があり、4月からの総観覧者数は1月末現在で24万人を超えており、年度集計で開館以来3番目に多い記録となる見込みである。ただし、常設展示である岡山の美術展の集客は伸び悩んでいる。 伝統工芸展開催期間中に、今年度初めて開催した「ゲームさんぽと備前焼を歩く」では、ゲーム世代の若者への訴求・集客に一定の成果があったと捉えている。
今後の課題	毎年、継続して県民にとって魅力ある企画展示を行うとともに、その魅力を伝える工夫が必要である。

おかやま文化振興ビジョン(2018-2027) 2023改定版 体系図



『おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)2023改定版』における成果指標の実績

※H29策定時数値について
指標名に「累計」と記載がないものは、原則としてH24(2012)～H28(2016)年度の平均値

【基本方針】

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 5 年度 (2023)	直近の実績値 R 6 年12月末 (2024)
文化施設利用者数	483,612人	267,800人	419,000人	402,730人	430,055人
(説明) 県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数					

【重点施策】

(1) 将来の地域文化の担い手育成

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 5 年度 (2023)	直近の実績値 R 6 年12月末 (2024)
学校行事で県立美術館を訪れた人数	3,661人	1,661人	2,500人	2,592人	2,424人
(説明) 授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数					
子どもみらい塾講師派遣回数	406回	196回	530回	300回	327回
(説明) 岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数					
優れた芸術を鑑賞した学校数《累計》	668校 (～H28)	1,294校 (～R3)	1,800校 (～R9)	1,614校 (～R5)	1,701校 (～R6.12)
(説明) 県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累計					
アウトリーチ活動実施回数	39回	17回	29回	28回	26回
(説明) 県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数					

(2) 県民参加による新たな文化の創造

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 5 年度 (2023)	直近の実績値 R 6 年12月末 (2024)
おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数《累計》	—	537件 (～R3)	1,000件 (～R9)	714件 (～R5)	751件 (～R6.12)
(説明) おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数の累計					
県が実施するアートマネジメント講座修了者数《累計》	69人 (～H28)	127人 (～R3)	220人 (～R9)	151人 (～R5)	151人 (～R6.12)
(説明) 県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計					
県立美術館ボランティア数	89人	93人	100人	100人	112人
(説明) 県立美術館に登録しているボランティア数					
岡山県美術展覧会への応募点数	3,296点	2,282点	3,300点	2,130点	1,998点
(説明) 岡山県美術展覧会へ一般応募された作品(日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻)の点数					

(3) 県民の文化創造活動の振興

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 5 年度 (2023)	直近の実績値 R 6 年12月末 (2024)
文化施設利用者数【再掲】	483,612人	267,800人	419,000人	402,730人	430,055人
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数					
「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	30.2% (H28調査)	26.2%	38.0%	31.0%	28.8%
(説明)県民満足度調査「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合 ※県民満足度調査「満足」「やや満足」回答の合計					
県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数	25,697件	7,409件	51,000件	83,993件	107,077件
(説明)県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数					
県民文化祭参加者数	370,978人	141,246人	215,000人	401,223人	158,707人
(説明)おかやま県民文化祭への総参加者数					
おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数	—	173件	190件 (R6実施分)	174件	176件
(説明)おかやま県民文化祭への総参加者数					

【基本方針】

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 5 年度 (2023)	直近の実績値 R 6 年12月末 (2024)
地域の特色や魅力を生かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数《累計》	69人 (～H28)	519人 (～R3)	950人 (～R9)	665人 (～R5)	665人 (～R6.12)
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツが実施するアートマネジメント研修受講者数と県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計					

【重点施策】

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 5 年度 (2023)	直近の実績値 R 6 年12月末 (2024)
日本伝統工芸展への応募点数	116点	57点	70点	52点	47点
(説明)日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数					
登録文化財の登録件数《累計》	275件 (～H28)	343件 (～R3)	367件 (～R9)	359件 (～R5)	375件 (～R6.12)
(説明)登録文化財の登録件数					

(2)文化の力を活用した地域の活性化

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 5 年度 (2023)	直近の実績値 R 6 年12月末 (2024)
県民文化祭地域フェスティバル実行委員会への参加団体数	118団体	242団体	270団体	310団体	51団体
(説明)おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)の実行委員会に参加した団体数					
県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業の1事業当たりの平均参加者数	—	—	4,400人	530人	未確定
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業の1事業当たりの平均参加者数					

【基本方針】

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 5 年度 (2023)	直近の実績値 R 6 年12月末 (2024)
文化施設ホームページアクセス件数	360,035件 (H28実績)	816,717件	1,039,000件	1,438,303件	1,434,493件
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館のホームページアクセス件数					

【重点施策】

(1)文化による連携・交流の促進

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 5 年度 (2023)	直近の実績値 R 6 年12月末 (2024)
文化に関わる人々のネットワークづくりのためのワークショップ等受講者数《累計》	—	959人 (～R3)	1,500人 (～R9)	1,088人 (～R5)	1,145人 (～R6.12)
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツが実施する文化に関わる人々のネットワークづくりのためのレクチャー・ワークショップ受講者数の累計					
国民文化祭への派遣団体数	8団体	6団体	10団体	4団体	3団体
(説明)国民文化祭への派遣団体数					

(2)岡山からの文化発信

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 5 年度 (2023)	直近の実績値 R 6 年12月末 (2024)
県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数《再掲》	25,697件	7,409件	51,000件	83,993件	107,077件
(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数					
県立美術館インスタグラムのフォロワー数《累計》	—	—	5,000人 (～R9)	4,076人 (～R5)	5,125人 (～R6.12)
(説明)県立美術館のインスタグラム(H30年度開設)のフォロワー数の累計					

【参考指標】

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 5 年度 (2023)	直近の実績値 R 6 年12月末 (2024)
外国人延べ宿泊者数	145,628人	—	487,000人	331,710人	— 6月公表予定 (R6暦年)
(説明)観光庁「宿泊旅行統計調査」(暦年調査)による外国人延べ宿泊者数					
観光入込客数	1,433万人	1,099万人	1,600万人	1,566万人	— 7月公表予定 (R6暦年)
(説明)観光庁「観光入込客統計」(暦年調査)による観光入込客数					
後楽園の入園者数	744,039人	267,801人	850,000人	781,575人	603,517人
(説明)後楽園の入園者数					

重 点 事 業 調 書

担当部局・課名		環境文化部文化振興課、県立美術館			
重点事業の名称		文化芸術で「地域の新たな魅力創出」推進事業			
第4次 生き生き プラン	重点戦略	Ⅲ 地域を支える産業の振興 Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造			
	戦略プログラム	3 観光振興プログラム 9 生きがい・元気づくり支援プログラム			
	施策	3 重点国・地域の特性を踏まえたインバウンド戦略の展開 1 重点文化とスポーツの力を活用した地域の活性化 3 推進県民が文化に親しめる環境づくりの推進			
第3期 創生 戦略	基本目標	3 持続的に発展できる経済力を確保する 4 地域の活力を維持する			
	対策	3 地域の持続的発展のための経済力の確保 4 地域の持続的発展のための活力の維持			
	政策パッケージ	3-② 産業の活性化 4-② 地域社会の活性化			
終期設定(年度)	R9	予算区分	一般	事項名	芸術文化活動費、県立美術館事業費
現状課題 必要性	【現状】 ・令和7年度は、「瀬戸内国際芸術祭2025」、「岡山芸術交流2025」、さらには「大阪・関西万博」も開催されることから、県民の文化芸術への関心の高まりや国内外からの観光客の増加が見込まれる。 ・県と県文化連盟が同連盟内へ設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」は本県の文化芸術の総合窓口として定着しているが、今後の本県の文化芸術の振興のためには、若年層が文化芸術活動に参加しやすい環境づくり、文化芸術人材の裾野拡大や文化芸術団体の活動活性化も進めていく必要があり、その重要度は増している。 ・岡山県の美術館数は16館と全国6位（文部科学省 令和3年「社会教育調査」）であり、美術館の魅力を訴求ポイントとしてインバウンド客を取り込むポテンシャルを有する。				
	【課題】 ・本県の文化芸術を継承・発展させていくため、若年層が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりや次世代を担う文化芸術人材の育成のための取組強化が不可欠な状況である。 ・地域の活性化を図るには、文化芸術の活用は有効なツールであり、地域の文化資源・文化施設を生かした事業展開や、文化芸術団体・アーティストと行政・地域等との連携が必要である。				
事業内容	【必要性】 ・瀬戸内国際芸術祭2025等の大規模イベント開催に合わせて県内各地でアートイベント等を開催することで、国内外からの誘客の効果を県内全域に波及させる必要がある。 ・若年層が気軽に文化芸術活動に参加できる環境づくりを進めるとともに、文化芸術団体の後継者や文化芸術の担い手育成支援により、文化芸術人材の裾野拡大を図っていく必要がある。 ・地域活性化に文化芸術を活用していくには、地域の文化資源を生かした新たな創造活動を図るとともに、文化芸術団体・アーティストと行政・地域等との調整・仲介機能の強化が必要である。 ・文化芸術人材の裾野拡大や文化芸術団体等と行政・地域等との連携強化等を進めていくため、「おかやま文化芸術アソシエイツ」のさらなる機能強化が必要である。				
	1 新規 美作三湯芸術温度の開催 《19,864千円》 終期：R7 美作三湯（湯郷、奥津、湯原）の宿泊施設等にアーティストを招き、各旅館の特色を踏まえた作品の制作・展示を行うことにより、県民へ文化芸術の鑑賞機会を提供するとともに、文化の力を活用した地域の活性化を図る。 瀬戸内国際芸術祭2025及び岡山芸術交流2025開催の波及効果が得られるよう、これらの文化イベントと同時期に開催する。 ・開催時期 令和7年9月～12月頃の約100日間				
事業内容	2 新規 岡山芸術交流2025の開催 《50,000千円》 終期：R7 現代アート作品の制作及び展示を行う国際現代美術展「岡山芸術交流2025」の開催を支援する。 瀬戸内国際芸術祭の秋会期(10/3～11/9)に合わせ開催することで、国内外からの誘客の相乗効果を図るとともに、県内各地で実施されるアートイベントとの連携など、県内全体で開催の効果が実感できる取組を行う。 また、県内小中学校の校外学習による鑑賞を支援し、世界で活躍するアーティストの作品を生で鑑賞する機会を提供する。				

- ・開催期間 令和7年9月26日～11月24日
- ・実施主体 岡山芸術交流実行委員会（会長：岡山市長、副会長：岡山県副知事、岡山商工会議所会頭）

3 新規「瀬戸芸美術館連携」プロジェクト《12,960千円》 終期：R7

大阪・関西万博、瀬戸内国際芸術祭の開催時期にあわせ、瀬戸内の8つの美術館（※）が連携して近代・現代アートの展覧会を開催する。

- ※岡山県：岡山県立美術館・大原美術館 兵庫県：兵庫県立美術館・横尾忠則現代美術館
- 香川県：直島新美術館・香川県立ミュージアム・高松市美術館・丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

4 アートプロジェクトおかやま推進事業《20,318千円》

(1)文化芸術の力を活用した地域のにぎわい創出事業《6,060千円》 終期：R9

地域の文化芸術団体や住民等と連携・協働しながら、国内外のアーティストを起用し、地域の伝統芸能、伝統行事、歴史的建造物、未指定文化財などの文化資源を活用したイベントや滞在制作等を実施することで地域のにぎわい創出や地域住民へ文化芸術に触れる機会を提供する。また、取組の中に、子どもや若者を対象としたイベント等を盛り込むことで、子どもや若者が身近な地域で、文化芸術に触れる機会を創出する。

- ・県内の文化団体、観光協会、地域振興団体などに委託して実施。（プロポーザル方式で事業者を選定）
- ・成果発表の場を設け、取組の成果等を県内の文化団体に還元することでより良い事業提案につなげていく。
- ・1事業あたり2,000千円×3団体

(2)アートマネジメント人材育成・地域課題解決支援事業《5,652千円》 終期：R9

県民が自ら主催者となってアートイベントを企画し、県内各地で様々なイベントが継続的に開催できるよう、文化芸術を活用したイベントの企画・運営ができる人材を育成するとともに、文化芸術が地域貢献に果たしうる可能性を広げる修了生による自主企画事業等を支援する。

- ・実施主体 アートで地域づくり実践講座実行委員会、県
- ・文化イベント等の企画・運営に関心の高い県民が対象。受講者数は20人程度を予定

(3)身近にオーケストラ！鑑賞事業《6,578千円》 終期：R9

県内の様々な地域において岡山フィルハーモニック管弦楽団によるフルオーケストラ公演を実施し、質の高い芸術鑑賞の機会を提供する。夏休み期間中に開催することで多くの小中学生に参加してもらい、プロオーケストラの演奏に触れる機会を提供する。

- ・実施主体 （公財）岡山文化芸術創造

(4)新規 夏休み文化体験大集合！！《2,028千円》 終期：R7

地域のアーティストを講師として、天神山文化プラザを主会場に子どもを対象とした各種の文化芸術講座と文化芸術体験イベントを開催し、子どもたちに様々な文化芸術の体験機会を提供する。

- ・実施主体 （公社）岡山県文化連盟

5 おかやま文化芸術アソシエイツ事業《5,461千円》 終期：R9

県と県文化連盟が同連盟内に設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」の高い専門性を生かし、文化芸術に関する相談支援や芸術家の活動支援などの総合窓口として継続的に取り組むとともに、文化芸術団体の後継者育成、若年層が文化芸術活動に気軽に参加できる環境づくり、行政・地域等と文化芸術団体・アーティストとの連携調整に積極的に取り組む。

- ・実施主体 （公社）岡山県文化連盟

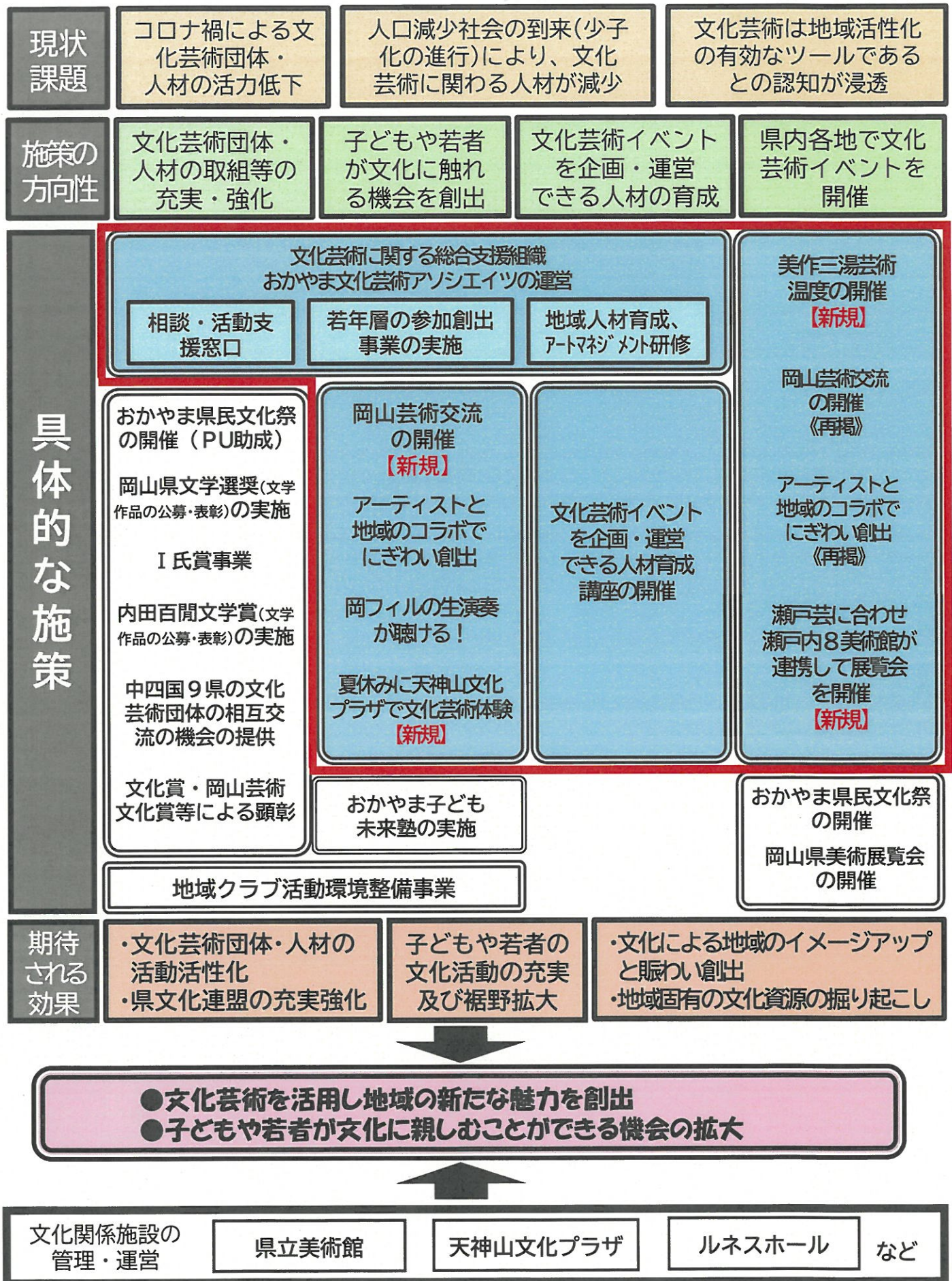
事業の意図、効果等

【効果】

- ・瀬戸内国際芸術祭（秋会期）、岡山芸術交流、美作三湯芸術温度の大規模アートイベントを同時期に開催することで、県民の文化芸術への関心が高まり、文化芸術の鑑賞者が増加する。
- ・瀬戸内の美術館が連携して美術館を観光資源として活用することで、岡山県立美術館の来館者が増加し収益の向上が図られるとともに、県内観光客の増加にもつながり、地域活性化、地域経済の振興が図られる。
- ・夏休み期間中に文化芸術イベントを行うことで、より多くの子どもたちが文化芸術の体験や鑑賞ができる。
- ・本県の文化芸術の総合窓口「おかやま文化芸術アソシエイツ」の高い専門性と機能を生かして文化芸術関係の様々な支援や事業を行うことにより、芸術家や文化団体等の活動が活性化され、さらには文化芸術人材の裾野が拡大し、もって本県文化の底上げが図られる。

事業目標	事業		生き活き指標、重要業績評価指標(KPI) 等		現状値	目標値	差
	1, 2, 3, 4(1)		生き活き 観光入込客数		1,566 万人 /年(R5)	1,759 万人 /年(R10)	193 万人
	2, 3		生き活き 訪日外国人旅行消費額		142 億円 /年(R5)	180 億円 /年(R10)	38 億円
	1, 2, 3, 4(1)~(4), 5		生き活き 文化芸術に関わった(自ら実践・直接鑑賞した)人の割合		42.4%(R5)	45.0%(R10)	2.6%
	1, 2, 3, 4(1)~(4), 5		KPI 文化芸術に関わった(自ら実践・直接鑑賞した)人の割合		42.4%(R5)	45.0%(R10)	2.6%
事業費の見積もり	区 分		R6 予算額	R7 予算要求額	R8 見込額	R9 見込額	R10 以降見込額
	事業費(単位:千円)		22,173	108,603	23,751	23,751	
	財源内訳	国 庫					
		起 債					
		その他特定財源		10,000			
		一 般 財 源	22,173	98,603	23,751	23,751	

文化芸術で「地域の新たな魅力創出」推進事業



脚注： 令和7年度新規重点事業

令和7年度 主要事業 予算要求額

○ 文化振興課

(単位：千円)

事 項 名	R 6	R 7	増減
芸術文化活動費	106,270	174,259	67,989

主な事業と当該予算の増	R 6	R 7	増減
1 おかやま県民文化祭開催 (1) おかやま県民文化祭開催 (2) 岡山県美術展覧会	42,096	42,096	0
2 オーケストラの育成と音楽文化の振興	3,190	3,190	0
3 おかやま子どもみらい塾事業費	4,580	4,580	0
4 岡山県「内田百閒文学賞」	4,151	4,151	0
5 文化芸術で「地域の新たな魅力創出」推進事業 新(1) 美作三湯芸術温度の開催 新(2) 岡山芸術交流2025 (3) アートプロジェクトおかやま推進事業 (4) おかやま文化芸術アソシエイツ事業	26,096	95,643	69,547

○ 県立美術館

(単位：千円)

事 項 名	R 6	R 7	増減
県立美術館事業費	69,767	73,330	3,563

主な事業と当該予算の増減	R 6	R 7	増減
1 企画展事業費 【R7特別展】 (1) ベル・エポック展 (2) 宮城県美術館展 (3) 平子雄一展 (4) 第72回日本伝統工芸展岡山展 (5) 美と祈り展 (6) Hello Kitty展 (7) 「瀬戸芸美術館連携」プロジェクト	66,048	62,067	△ 3,981
2 教育普及事業費 (1) こんにちは美術館事業 (2) 博学・博社連携事業 新(3) 若者×美術館～新たな楽しみ見つけた！事業～	3,719	11,263	7,544

おかやま文化振興ビジョンの改訂について

1 経緯

今年度、令和 7 (2025) 年度から令和 10 (2028) 年度までの 4 年間で、第 4 次晴れの国おかやま生き活きプランが策定される予定です。

一方、おかやま文化振興ビジョン（以下、「ビジョン」という）は、平成 30 年度から令和 9 年度までがその計画期間となっていますが、次期見直しが次期晴れの国おかやま生き活きプラン見直しの前年となることから、ビジョンの計画期間を 1 年延長し、第 4 次プランに合わせて改訂するものです。

2 改訂の方向性

- ・「基本方針」や「施策の方向性」など、基本的な柱については、現行の文化振興ビジョンを維持
- ・第 4 次晴れの国おかやま生き活きプランの策定による変更点を文化振興ビジョンに反映
- ・計画期間 (2018～2027) を 1 年延長し、終期を令和 10 (2028) 年までとするため、現在の成果指標を 1 年延長させた指標を設定するとともに、第 4 次晴れの国おかやま生き活きプランで新たに追加された指標を追加
- ・令和 4 年度に文化振興ビジョンを見直した際、ポストコロナ社会における文化振興の在り方について追記した内容については、必要に応じ、生き活きプランとの内容に齟齬が生じない範囲で修正・削除

3 改訂までのスケジュール

- 2 月上旬 プレス発表（文化振興審議会の開催）
- 2 / 1 3 文化振興審議会へ諮問
（審議会において概要説明）
- 2 月下旬 文化振興審議会から答申
- 3 月中旬 文化振興ビジョン改訂

文 第 1 9 5 号

令和7年2月13日

岡山県文化振興審議会

会長

様

岡山県知事 伊原木 隆太

文化の振興に関する基本的な計画の策定について（諮問）

岡山県文化振興基本条例第 8 条第 2 号の規定に基づき、下記のとおり諮問します。

記

おかやま文化振興ビジョンの改訂について

文化振興ビジョンに係る今後のスケジュール案

年度	生き生きプラン	現行の計画期間	今後の計画期間（案）	審議会委員改選
2008	H20 H21 H22 H23 H24	おかやま文化振興 ビジョン (平成20年度 -平成29年度) 改定検討		委員任期
2009				委員任期
2010				委員任期
2011				委員任期
2012	H25 H26 H27 H28 H29	おかやま文化振興 興ビジョン (平成20年度 -平成29年度) 平成25年改定版 改定検討		委員任期
2013				委員任期
2014				委員任期
2015				委員任期
2016	H30 R1 R2	新晴れの国おかやま生 き生きプラン 改定検討		委員任期
2017				委員任期
2018				委員任期
2019				委員任期
2020	R3 R4 R5	第3次晴れの国 おかやま生き生き プラン 改定検討		委員任期
2021				委員任期
2022				委員任期
2023				委員任期
2024	R6 R7 R8 R9	第4次晴れの国 おかやま生き生き プラン 改定検討	文化振興ビジョン (2018-2027)2023改定版 文化振興ビジョン (2018-2028)2025改訂版 改訂検討	現委員任期
2025				委員任期
2026				委員任期
2027				委員任期
2028	R10 R11 R12 R13	次期 おかやま文化振興 ビジョン (2028-2037) 改定検討	次期 文化振興 ビジョン (2029-2036) 改定検討	委員任期
2029				委員任期
2030				委員任期
2031				委員任期
2032				

現 行	改 訂 案
おかやま文化振興ビジョン （2018～<u>2027</u>）<u>2023 改定版</u> （令和 5 年 3 月改定）	おかやま文化振興ビジョン （2018～<u>2028</u>）<u>2025 改訂版</u> （令和 5 年 3 月改定） <u>（令和 7 年 3 月改訂）</u>
I ビジョン改定に当たって	I ビジョン改訂に当たって
1 これまでの経緯と改定の趣旨 岡山県では、平成12（2000）年 3 月に21世紀を展望した「岡山県文化振興ビジョン」を策定し、平成18（2006）年 3 月には、県民の主体的な文化活動を尊重し、多様な主体との協働により、心豊かに生きることができる地域社会の実現を目指した「岡山県文化振興基本条例」を制定しました。そして、この条例制定を契機として、「おかやま文化振興ビジョン」を平成20（2008）年 2 月に新たに策定し、各種施策に取り組んできました。 また、県では、平成16（2004）年の「県立図書館」、平成17（2005）年の「天神山文化プラザ」、「ルネスホール」などの開館や「岡山県文化連盟」の創設などハード・ソフトの両面から施策を実施し、着実に成果を上げてきました。 さらに、平成22（2010）年秋に開催した「第25回国民文化祭・おかやま2010」（愛称：「あつ晴れ！おかやま国文祭」）では、これまで蓄積された岡山の文化を生かし、新しい文化の創造や発展に取り組むとともに、全国へ向けて岡山の文化を発信する大きな機会となりました。 一方、<u>本県において、令和 2（2020）年 3 月に新型コロナウイルスの感染者が確認されて以降、感染症が急激に拡大し、その後の緊急事態宣言の発令等を受け、文化芸術団体や文化施設は公演等のイベントの中止、延期、規模縮小を余儀なくされるとともに、地域では祭礼や民俗芸能等の伝統行事なども大きな影響を受けました。しかし、コロナ禍という未曾有の困難と不安を経験する中にあっても、文化芸術は、県民に感動や生きる喜びを与え続けました。</u> 令和 3（2021）年度からの 4 年間の県政推進の羅針盤である「第 3 次晴れの国おかやま生き生きプラン」では、重点戦略として「安心で豊かさが実感で	1 これまでの経緯と改訂の趣旨 岡山県では、平成12（2000）年 3 月に21世紀を展望した「岡山県文化振興ビジョン」を策定し、平成18（2006）年 3 月には、県民の主体的な文化活動を尊重し、多様な主体との協働により、心豊かに生きることができる地域社会の実現を目指した「岡山県文化振興基本条例」を制定しました。そして、この条例制定を契機として、「おかやま文化振興ビジョン」を平成20（2008）年 2 月に新たに策定し、各種施策に取り組んできました。 また、県では、平成16（2004）年の「県立図書館」、平成17（2005）年の「天神山文化プラザ」、「ルネスホール」などの開館や「岡山県文化連盟」の創設などハード・ソフトの両面から施策を実施し、着実に成果を上げてきました。 さらに、平成22（2010）年秋に開催した「第25回国民文化祭・おかやま2010」（愛称：「あつ晴れ！おかやま国文祭」）では、これまで蓄積された岡山の文化を生かし、新しい文化の創造や発展に取り組むとともに、全国へ向けて岡山の文化を発信する大きな機会となりました。 一方、<u>加速度的に進行している人口減少、特に急速な少子化の進行により、文化を担う人材の高齢化や、未来の地域文化を継承する人材の不足が顕在化しています。それに加え、文化活動の停滞を引き起こした新型コロナウイルス感染症の流行を原因とする、文化団体・文化人材の活動の停滞が継続するなど、文化を取り巻く社会情勢は劇的に深刻化しています。</u> 令和 <u>7（2025）</u> 年度からの 4 年間の県政推進の羅針盤である「第 <u>4</u> 次晴れの国おかやま生き生きプラン」では、重点戦略として「安心で豊かさが実感で

きる地域の創造」を掲げ、この度のコロナ禍が文化の価値を見つめ直す機会になったことも踏まえ、文化の振興を通じて、豊かで潤いのある暮らしや活力のある地域の創造を目指すこととしています。

今回、こうした社会経済情勢等の変化を受け、あらためて浮かび上がった課題や新たな生活様式の実践の中で生まれた取組等も踏まえながら、本県文化の一層の振興を図る施策を効果的に展開し、岡山の文化を揺るぎないものとして次世代へ継承し、発展させていくためにこのビジョンを改定するものです。

2 位置付け

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第7条に定める「文化の振興に関する基本的な計画」としての役割を担うもので、長期的視点に立った今後の本県文化行政の施策の方向性を示すものです。

3 対象範囲

「文化」は様々に捉えられていますが、本ビジョンでは、岡山県文化振興基本条例に基づき、概ね次に掲げる芸術、生活文化、伝統文化などの各分野を対象としています。

さらに、文化の持つ力を活用した地域づくり・国際交流・産業振興・福祉・景観などの分野における取組も含めて検討しています。

(対象とする分野)

◇芸術（文学・音楽・美術・書道・写真・演劇・舞踊・工芸・デザインなど）、メディア芸術（映画・漫画・アニメーション・コンピュータなどを利用した芸術など）

◇生活文化（茶道・華道・囲碁・将棋・民芸・郷土料理・ファッションなど）、文字・活字文化

◇伝統文化（地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言など）

4 期 間

平成30（2018）年度から令和9（2027）年度までの10年間とします。

なお、令和4（2022）年度に中間見直しを行い、内容を改定しています。

きる地域の創造」を掲げ、その中で、文化活動に親しむ環境づくりなどを通じて、安心して豊かな心を育み、健やかな体力づくりを進めることができる地域の創造を目指すこととしています。

今回、こうした社会経済情勢等の変化を受け、あらためて浮かび上がった課題や取組等も踏まえながら、本県文化の一層の振興を図る施策を効果的に展開し、岡山の文化を揺るぎないものとして次世代へ継承し、発展させていくためにこのビジョンを改訂するものです。

2 位置付け

(略)

3 対象範囲

(略)

4 期 間

平成30（2018）年度から令和10（2028）年度までの11年間とします。

なお、令和4（2022）年度に中間見直しを、令和6（2024）年度に改訂を行い、内容を修正しています。

Ⅱ 文化振興の基本的視点

1 文化振興の基本的視点

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第3条に掲げた5つの基本理念を基本的な視点として策定します。

(1) 自由な発想と主体的な文化活動の尊重

文化の創造は、芸術家のみならず、すべての人の創造活動により実現するものです。こうした人間の自由な精神に基づいた多様な創造活動は、個人の生活の質を高め、その個性や創造性を引き出す原動力になります。

こうしたことから、県民一人ひとりの自由な発想と主体的な文化活動が尊重され、すべての人が自由な発想を持って活動することにより、文化が活性化され、より豊かで特色ある創造的な地域文化が生まれるという視点を幅広く共有することが重要です。

(2) 文化を創造し、享受することができる環境の整備

文化を創造し、享受することは、人々の生まれながらの権利です。県内どこに住んでいようと、誰もが等しく文化を創造し、享受することができる環境を整えていかななくてはなりません。

これまで、県内各地で公立文化施設等の整備が進められ、施設面では充実してきましたが、文化を享受する機会についてはまだ地域的に大きな開きがあります。

こうしたことから、文化に関する情報提供や各地域における文化を育む環境の整備を通じて、広く県民が様々な形の文化に触れ、文化の創造活動に参加できるとともに、創造性や個性を発揮しやすい環境をつくることが重要です。

(3) 芸術家等の育成

多様で優れた文化を創造し、継承し、発展させていくためには、文化に関する創造活動に携わる芸術家をはじめ、文化施設や文化団体で企画・研究等を行う学芸員やアートマネジメント担当者、文化財等の保存技術保持者や研究者、伝統芸能の伝承者などの活動と相互の連携が欠かせません。

Ⅱ 文化振興の基本的視点

1 文化振興の基本的視点

(略)

こうしたことから、これらの人々が活動成果を発表する機会の確保に加えて、文化に関する幅広い人材の育成・活用や資質向上のための研修等の充実を図ることが重要です。

(4) 県民の協働による文化の振興

文化は、地域の魅力を創造し、豊かな地域づくりの礎になるとともに、人々に精神的な豊かさや感動を与え、生きる力と喜びをもたらすなど、様々な面で私たちの生活を支えているものです。

文化の持つこのような力を人づくりや地域づくり、さらには地域産業の活性化に生かしていくことが必要です。

また、文化活動を行うNPO等の増加、大学と地域の連携、文化活動を支援する企業のメセナ活動など、行政以外の分野でも様々な取組が広がっています。

こうしたことから、県民・文化団体・NPO・企業・大学など、様々な主体と行政が、目標を共有しながら、その目標に向かって、ともに力を合わせて活動する文化の振興を進めていくことが重要です。

(5) 将来の世代への文化の継承

地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言などの伝統文化は、人々の暮らしや生き方を支える基盤であるとともに、全国・世界に誇りうる貴重な財産です。また、これらの伝統文化は県民の誇りと心のよりどころであり、県民の活力を高め、新しい価値を創造する源であるとともに、将来の地域発展の基礎となるものです。

こうしたことから、県内各地の個性ある伝統文化や埋もれた文化資源を掘り起こし、県民共有の財産として尊重し、将来の世代に伝えていくことが重要です。

2 県の役割

県の役割は、地域における文化振興の総合的なコーディネーターとして、芸術家等の育成支援や、県民や民間団体等の主体的な文化活動が活発に行われるような環境づくりを図るとともに、あらゆる人々が文化に親しみ、参画することで地域に文化が育まれる風土づくりを醸成し、文化活動

2 県の役割

県の役割は、地域における文化振興の総合的なコーディネーターとして、芸術家等の育成支援や、県民や民間団体等の主体的な文化活動が活発に行われるような環境づくりを図るとともに、子どもや若者をはじめとしたあらゆる人々が文化に親しみ、参画することで地域に文化が育まれる

の成果がよりよい地域づくりに生かされるよう努めていくことです。

このため、岡山県文化連盟(公益社団法人岡山県文化連盟、以下同じ。)に設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」の機能も活用しながら、次の役割に重点を置き、施策を推進していきます。

(1) 県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり

多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、文化活動に参加できる環境づくりや、県民が文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

(2) 県民文化の継承・発展

これまで蓄積されてきた岡山の伝統的文化を取り入れながら、世代や分野を超えた新しい文化が創造され発展するよう取り組んでいくとともに、この度のコロナ禍に象徴されるように、社会経済情勢等の変化により、文化芸術を取り巻く環境がどのような影響を受けても、岡山の文化を揺るぎないものとして次世代へ継承し、発展させていくよう努めます。

(3) 未来を創り、拓いていく担い手育成

将来の岡山の文化を担う子どもや若者らが、様々な文化を体験できる機会を充実するとともに、若手芸術家の育成など、未来を創り、拓いていく担い手の育成に努めます。また、文化芸術に親しみ理解を深める取組を通じ、文化芸術を積極的に楽しむ層の拡大に努めます。

(4) 「文化の力」の充実と活用

文化の持つ「人々を感動させ魅了する力」、「地域の魅力や価値を高める力」等に着目し、その力を高めて地域づくり・産業振興・福祉などに生かし、地域の活性化に努めます。

(5) 文化ネットワークの形成

文化の持つ力を高め、文化活動を活発化させるため、人・もの・地域・情報を結びつける仕組みづくりに努めます。

風土を醸成し、文化活動の成果が魅力的な地域づくりに生かされるよう努めていくことです。

このため、公益社団法人岡山県文化連盟(以下「岡山県文化連盟」という。)に設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」の機能も活用しながら、次の役割に重点を置き、施策を推進していきます。

(1) 県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり

(略)

(2) 県民文化の継承・発展

これまで蓄積されてきた岡山の伝統的文化を取り入れながら、世代や分野を超えた新しい文化が創造され発展するよう取り組んでいくとともに、社会経済情勢等の変化により、文化芸術を取り巻く環境がどのような影響を受けても、岡山の文化を揺るぎないものとして次世代へ継承し、発展させていくよう努めます。

(3) 未来を創り、拓いていく担い手育成

将来の岡山の文化を担う子どもや若者らが、様々な文化に興味を持ち、親しみながら、文化活動に参加できる環境づくりを進め、文化活動の裾野の拡大を図るとともに、地域文化の担い手の育成を推進します。

さらに、未来を創り、拓いていく若手芸術家の育成にも努めます。

(4) 「文化の力」の充実と活用

文化の持つ「人々を感動させ魅了する力」、「地域の魅力や価値を高める力」等に着目し、その力を高めて地域づくり・産業振興・福祉などに生かし、地域の活性化に努めます。

(5) 文化ネットワークの形成

(略)

Ⅲ 基本目標

「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」

岡山県は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、古代吉備からの長い歴史を通じて、人・もの・情報が活発に行き交う水陸の交通の要衝として栄えてきました。

そうした中で、先人が育み守り伝えてきた独自の文化と、時代ごとに新たに創造された文化とが交流し、融合する中で、岡山の文化を形成してきました。

今また、県民の自主的な文化活動や幅広い交流を図ることで、新しい文化が生み出されようとしています。

県民一人ひとりが岡山の文化に愛着心と誇りを持ち、県民の協働によって岡山の文化を継承・創造・発信しながら発展させていきます。そして、その豊かで特色ある岡山の文化が人々の心の豊かさや活力を一層向上させます。このような好循環が県民の自由な発想と活発な文化活動によって生み出され、岡山の文化の質がさらに高まっていくことを目指します。

Ⅳ 基本方針

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

県民一人ひとりが文化を創造し、楽しみ、感動する機会を平等に得られることが大切です。そのためには、あらゆる県民が居住地域にかかわらず、創作活動に参加したり、鑑賞体験できる機会を充実させることが必要です。

また、若手芸術家への支援や文化サポーターの育成など、文化を創造し、支える人材の育成を図る必要があります。

このため、多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、各地域で文化の伝承・創造活動に参加できる環境づくりや、文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

文化の持つ力は、県民の自信と活力を高め、新しい価値を創造する源であり、豊かな地域づくりに欠

Ⅲ 基本目標

「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」

(略)

Ⅳ 基本方針

(略)

かすことができません。

また、地域固有の歴史と風土の中で育まれてきた伝統文化や、歴史的なまちなみ、集落や都市の景観、自然環境等は、県民の誇りと心のよりどころであり県民共有の財産です。

文化の持つ力でこれらの地域の魅力や価値をさらに掘り起こし、地域の特色や魅力を生かした取組を展開することで、観光や地域産業の活性化など、豊かな地域づくりにも文化の力を生かしていきます。

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

古くから交通の結節点となって栄えてきた岡山の歴史が語るように、人・もの・情報が活発に行き交う時代と地域にあってこそ多様な文化が融合し、向上し、新しい文化が育まれます。

また、地域固有の文化は、人々の心を結びつけ、相互理解と連携を深める上で重要な役割を果たすとともに、郷土への愛着心を育みます。

このようなことから、それぞれの分野で活動する文化団体等がお互いに幅広い交流を行い、連携を深められるよう努めるとともに、岡山の魅力を伝える文化の積極的な発信と多様な文化の受信に取り組めます。

V 具体的施策

(施策体系)

文化を伝承・
創造し心豊かに
生活できる
岡山

- (1) 将来の地域文化の担い手育成
- (2) 県民参加による新たな文化の創造
- (3) 県民の文化創造活動の振興
- (4) 障害のある人の文化芸術活動の推進

文化が地域の
元気を生み出す
岡山

- (1) 伝統文化の保存・継承・発展
- (2) 文化の力を活用した地域の活性化
- (3) 地域資源としての文化の積極的な活用

文化発信しながら
交流を広げる岡山

- (1) 文化による連携・交流の促進
- (2) 岡山からの文化発信

V 具体的施策

(略)

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

(1) 将来の地域文化の担い手育成

学校や地域において、子どもや若者が本物の文化に触れ、豊かな感性や創造性を育む機会を充実することにより、次世代の文化の担い手となる、心豊かな子どもや若者の育成を図ります。

(重点施策)

○郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実

岡山ゆかりの人物をわかりやすく紹介するガイドブックや文化財めぐりに便利なマップ等の作成、文化財に関する情報の整理・充実、インターネット等を活用した発信など、子どもや若者が、郷土の歴史や有形・無形の文化財に親しむ機会の充実を図ります。

○学校教育における文化活動の充実

「総合的な学習の時間」など様々な学習機会の場においてインターネット等もうまく活用しながら、芸術や伝統文化等に親しむ教育の充実や、児童生徒が発表する機会や優れた文化を鑑賞する機会の充実を図ります。

また、学校の各教科等の授業や文化部活動の活性化を図るため、音楽や美術等の指導を行う教員の資質向上を図るとともに、優れた地域の芸術家や文化活動の指導者などと教員が協力して、様々なプログラムを作成し指導ができる取組を促進し、学校における芸術教育や文化活動の充実を図ります。

なお、休日の文化部活動の段階的な地域連携や地域クラブ活動への移行について、令和4(2022)年12月にスポーツ庁及び文化庁から公表された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、今後、検討が進められていく中で顕在化する様々な課題も踏まえ、地域の文化芸術団体や市町村等と連携・協力しながら、児童生徒が将来にわたって文化芸術に継続して親しむ機会を確保できるような環境整備に努めます。

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

(1) 将来の地域文化の担い手育成

(略)

(重点施策)

○郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実

(略)

○学校教育における文化活動の充実

「総合的な学習 (探求) の時間」など様々な学習機会の場においてインターネット等もうまく活用しながら、芸術や伝統文化等に親しむ教育の充実や、児童生徒が発表する機会や優れた文化を鑑賞する機会の充実を図ります。

また、学校の各教科等の授業の活性化を図るため、音楽や美術等の指導を行う教員の資質向上を図るとともに、優れた地域の芸術家や文化活動の指導者などと教員が協力して、様々なプログラムを作成し指導ができる取組を促進し、学校における芸術教育や文化活動の充実を図ります。

○子どもや若者の文化活動の充実

子どもや若者を対象とした文化公演等への支援を行うとともに、民間団体等との連携などにより文化活動の場や機会の充実を図ります。また、文化・芸術の指導者や民俗芸能・伝統工芸などの継承者を講師とする学校出前講座の実施や、美術館、博物館などの文化施設や文化団体等によるアウトリーチ活動の充実を図るなど、社会のデジタル化が急速に進む中であっても、優れた文化芸術に実際に触れる機会を創出することで、未来を担う子どもたちの文化に対する感性を育む取組を促進します。

○教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実

子どもたちに文化に関する指導を行う教員の資質の向上を図るため、県立博物館、県立美術館、古代吉備文化財センターなどの県立文化施設を活用した研修の充実を図ります。また、次代を担う学生等が多様な文化に触れる機会を増やし、心豊かで地域に誇りと愛着心を持つことにつながるような研修機会の充実を図ります。

○芸術系専門学科を有する高校や大学との連携

県立文化施設と県内の芸術系専門学科を有する高校や大学が、部活動、職場実習、出前講座などによる連携を通じ、新たな文化活動の創出、ネットワークの構築を図ります。

(2) 県民参加による新たな文化の創造

県民による文化活動の充実を図るため、文化活動を担う人材及び団体等の育成及び活用に努めます。また、次世代を担う新進芸術家が活動成果を発表する機会の充実に努めます。

○子どもや若者の文化活動の充実

民間団体等と連携しながら、子どもや若者を対象とした文化活動の場や機会の充実を図ります。また、文化・芸術の指導者や民俗芸能・伝統工芸などの継承者を講師とする学校出前講座の実施や、美術館、博物館などの文化施設や文化団体等によるアウトリーチ活動の充実を図るなど、優れた文化芸術に実際に触れる機会を創出することで、未来を担う子どもや若者の文化に対する豊かな感性を育む取組を促進します。

なお、学校の文化部活動の地域移行等については、将来にわたって生徒が継続的に文化芸術活動に親しめるよう地域クラブ活動の充実に取り組みます。また、移行に向けては、指導者や活動場所の確保、生徒・保護者などの理解を促進するための効果的な周知・広報の実施等、市町村や地域の文化芸術団体等の関係者と連携した取組を推進します。

○教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実

子どもに文化に関する指導を行う教員の資質の向上を図るため、県立博物館、県立美術館、古代吉備文化財センターなどの県立文化施設を活用した研修の充実を図ります。また、次代を担う学生等が多様な文化に触れる機会を増やし、心豊かで、地域への誇りと愛着心の醸成につながるような研修機会の充実を図ります。

○芸術系専門学科を有する高校や大学との連携

(略)

(2) 県民参加による新たな文化の創造

(略)

(重点施策)

○岡山県文化連盟の機能強化

岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」は、この度のコロナ禍において、県内の文化団体等に対して活動を継続するための相談・支援等の取組に大きな役割を果たしたところであり、引き続き、文化団体やアーティストなどの創造活動への支援やコーディネート、また、文化団体相互の連携を促進する総合窓口としての機能の充実、強化を図ります。

○文化団体への活動支援

岡山県文化連盟、岡山県郷土文化財団(公益財団法人岡山県郷土文化財団、以下同じ。)等と連携して、県内の文化団体が自らのレベルアップを図るためのノウハウや、国や民間団体の各種助成制度についての情報提供等に努めます。

○アートマネジメントの推進

文化施設・文化団体の担当者、舞台技術者、学芸員などを対象に、企画制作、広報等資質向上のための研修や交流機会の充実を図ります。

また、地域における文化活動を支えていけるよう、企画、制作、演出などができる人材を育成するとともに、その人材を民間団体、NPO等が有効に活用できるような仕組みを構築します。

○文化サポーターの育成

県内各地で展開される、分野や世代を超えた活発な文化活動を様々な形でサポートする人材を育成、活用し、今後の充実した文化活動へと結びつけます。

○芸術家等の創造活動への支援

地元の芸術家等による創造活動を支援するため、市町村や地域住民と協力しながら、おかやま県民文化祭をはじめとした活動の場の充実に努めます。

また、次の世代を担う若手芸術家を育成する

(重点施策)

○岡山県文化連盟の機能強化

岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」は、県内の文化団体等への相談・支援等の取組に大きな役割を果たしており、引き続き、文化団体やアーティストなどの創造活動への支援やコーディネート、また、文化団体相互の連携を促進する総合窓口としての機能の充実、強化を図ります。

○文化団体への活動支援

岡山県文化連盟、公益財団法人岡山県郷土文化財団(以下「岡山県郷土文化財団」という。)等と連携して、県内の文化団体が自らのレベルアップや活動の継続を支援するとともに、国や各種団体の各種助成制度等についての情報提供に努めます。

○アートマネジメントの推進

(略)

○文化サポーターの育成

(略)

○芸術家等の創造活動への支援

(略)

ため、新進美術家を対象とした岡山県新進美術家育成「I氏賞」を活用するなど本県ゆかりの若手芸術家の発表の場を提供するよう努めます。

(3) 県民の文化創造活動の振興

広く県民が、身近なところで文化についての理解及び関心を高め、質の高い文化を鑑賞するとともに、文化の創造活動に参加できるような環境の整備を進め、優れた地域文化の形成に努めます。

(重点施策)

○文化施設の利用促進・機能強化

県立美術館、県立博物館、天神山文化プラザ、ルネスホール、県立図書館、県立記録資料館などの文化施設の利用促進に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策により培った経験等も踏まえ、安全で安心して過ごすことができる環境を整えます。

また、すべての人々に利用しやすく多様なサービスを効率的に提供できる地域の文化の拠点となるよう、学芸員や職員の研修の充実、資料のデジタル化、外国語表記の充実など、様々な手法を活用し文化施設の機能強化を図ります。

さらに、県民が身近に文化活動を行うことができる場の充実を図るため、学校の空き教室や廃校施設、歴史的建造物、公共空間、商店街の空き店舗等、地域の文化資源についても、県民や地域の文化関係者の文化活動への幅広い利用を促進します。

○質の高い美術や舞台芸術等の鑑賞機会の提供

広く県民が多様な文化に親しみ新しい価値に出会うことができるよう、県立美術館、県立博物館等においては、郷土ゆかりの資料の収集に努め、充実した展示を行うとともに、多くの人が文化に気軽に親しみ鑑賞できる企画展を開催します。

また、国や公益法人等が行う支援制度の活用や民間団体、NPO等による公演等への支援を通じて多くの県民が国内外の質の高い美術や舞台芸術等を鑑賞できる機会の充実を図ると

(3) 県民の文化創造活動の振興

(略)

(重点施策)

○文化施設の利用促進・機能強化

県立美術館、県立博物館、天神山文化プラザ、ルネスホール、県立図書館、県立記録資料館などの文化施設の利用促進に努めるとともに、コロナ禍により培った経験等も踏まえ、安全で安心して過ごすことができる環境を整えます。

また、すべての人々に利用しやすく多様なサービスを効率的に提供できる地域の文化の拠点となるよう、学芸員や職員の研修の充実、資料のデジタル化、外国語表記の充実など、様々な手法を活用し文化施設の機能強化を図ります。

さらに、県民が身近に文化活動を行うことができる場の充実を図るため、学校の空き教室や廃校施設、歴史的建造物、公共空間、商店街の空き店舗等、地域の文化資源についても、県民や地域の文化関係者の文化活動への幅広い利用を促進します。

○質の高い美術や舞台芸術等の鑑賞機会の提供

(略)

ともに、デジタルアートなど、新しい分野の鑑賞機会の提供にも取り組みます。

さらに、社会のデジタル化が急速に進展していることを踏まえ、あらゆる人々が、文化芸術に興味・関心を持つきっかけとなるよう、オンライン配信はもとより、VR（仮想現実）、AR（拡張現実）などの先端技術の活用も検討します。

○文化に関する情報提供の充実

文化の情報拠点機能を持つ天神山文化プラザ等において、各種文化情報の収集に努めるとともに、その情報はメディア等を用いて広く県民に対し発信します。

また、県内の文化団体や文化施設等が持つ情報を総合的に集約・発信し、誰もが本県の文化に関する情報を容易に入手できるよう、ホームページの内容を充実させることで、効果的な情報提供に努めます。

○おかやま県民文化祭の充実

県民の文化への関心や、県内各地の文化活動の取組を根付かせ、伝統ある地域文化や新たに創造された特色ある文化を県民が身近に感じられる機会を提供するため、県民との協働によるおかやま県民文化祭の充実に努めます。

（４）障害のある人の文化芸術活動の推進

障害のある人が文化に親しむことは、交流の拡大・生きがい・生活の充実等につながるものです。障害のある人が、文化芸術活動を行い、鑑賞することのできる環境づくりに取り組みます。

（重点施策）

○障害のある人の文化芸術活動の推進

障害のある人が、自身の文化芸術活動を発表する場の充実に努めるとともに、障害の有無にかかわらず文化に親しみ、障害のある人となない人が共に文化芸術活動を行うことができる環境づくりに努めます。

○文化に関する情報提供の充実

文化の情報拠点機能を持つ天神山文化プラザ等において、各種文化情報の収集に努めるとともに、その情報は、新聞やテレビ、ラジオなどのマスメディアや、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）等を用いて広く県内外に対し発信します。

また、県内の文化団体や文化施設等が持つ情報を総合的に集約・発信し、誰もが本県の文化に関する情報を容易に入手できるよう、ホームページやSNS等の内容を充実させるなど、効果的な情報提供に努めます。

○おかやま県民文化祭の充実

（略）

（４）障害のある人の文化芸術活動の推進

（略）

（重点施策）

○障害のある人の文化芸術活動の推進

（略）

○文化施設での字幕・音声案内サービスの提供等

博物館、美術館等における文化公演や展示等において、字幕や音声案内サービスの提供等、障害のある人のニーズに応じた工夫・配慮が提供されるように努めます。

○文化施設での字幕・音声案内サービスの提供等

博物館、美術館等における文化公演や展示等において、字幕や音声案内サービスの提供等、障害のある人のニーズに応じた合理的配慮が提供されるように努めます。

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

岡山県には、「岡山後楽園」「吉備津神社」「旧閑谷学校」などの文化財や、「備前焼」「備前刀」などの伝統工芸、「備中神楽」「白石踊」「横仙歌舞伎」などの伝統芸能など全国に誇る豊かな伝統文化があります。

このような穏やかで恵み豊かな自然・風土が、古代吉備以来、各時代に多彩な文化を育んできた岡山県の歴史を物語る文化遺産を、県民共有の財産として適切に保存し、その中に含まれる先人の知恵を汲み出し、本質を学び、そして次世代に継承するとともに、今に生きる文化として発展させ、積極的な活用を図ります。

(重点施策)

○民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用

地域の祭り、民俗芸能、伝統行事、伝統工芸技術、先人が日常生活の中で伝えてきた知恵などを保存・継承をするための調査や記録保存、発信を推進するとともに、伝統工芸展や民俗芸能の祭典等の発表機会への参加促進や、後継者の育成、保存団体のネットワーク化を推進します。

○古代吉備文化遺産の保存・活用

古代吉備の豊かな文化遺産を体感できるよう、文化遺産の特性や適切な保存に配慮しつつ、積極的な活用を行い、県民が歴史や文化に触れ、親しむ機会を充実します。そのため、県・市町村が連携して、主要な遺跡や建造物等の文化遺産の保存・活用を図ります。

さらに、地域の文化財保護団体との連携によるボランティアの育成・活用など、文化財保護活動の充実を図ります。

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

本県には、「岡山後楽園」「吉備津神社」「旧閑谷学校」などの文化財や、「備前焼」「備前刀」などの伝統工芸、「備中神楽」「白石踊」「横仙歌舞伎」などの伝統芸能など全国に誇る豊かな伝統文化があります。

このような穏やかで恵み豊かな自然・風土が、古代吉備以来、各時代に多彩な文化を育んできた本県の歴史を物語る文化遺産を、県民共有の財産として適切に保存し、その中に含まれる先人の知恵を汲み出し、本質を学び、そして次世代に継承するとともに、今に生きる文化として発展させ、積極的な活用を図ります。

(重点施策)

(略)

○郷土の誇る先人顕彰の推進

様々な分野における郷土の先人の功績をたえ次世代に伝え、学びや新たな創造を促すため、先人の功績の記録・顕彰、遺品・資料・作品の収集及び公開を推進します。

○ユネスコ無形文化遺産登録活動の支援

「日本の書道文化」など、後世に伝えていくべき無形文化を、ユネスコ無形文化遺産に登録する活動の支援に努めます。

(2) 文化の力を活用した地域の活性化

地域の風土に根ざし、先人が守り伝えてきた様々な伝統文化や、地域固有の全国に誇りうる文化資源を改めて認識し、民間団体、NPO、大学等と連携しながら、地域で芽吹く新たな創造活動の活性化に努め、文化の力による地域のにぎわいの創出を促進します。

(重点施策)

○地域固有の文化資源の掘り起こし

伝統文化、優れた景観、地域の歴史を素材とした文化活動などは、再評価や有効活用により、地域を特徴づけるシンボルとなります。

このような県内各地に存在する特色ある文化資源を幅広く掘り起こし、ブランド化を図り、地域づくりに生かしていきます。

○文化による地域のイメージアップとにぎわい創出

文化を核とした地域づくりを推進するため、地域の文化素材を生かした取組を行っている団体やNPO等を支援します。また、アートイベントに必要な企画力、コーディネート力等のスキルを備えた人材育成などを通じ、文化による地域のにぎわい創出を図ります。

○国内外のアーティストの地域への受け入れ

地域の作家や住民、NPO、市町村などが主体となり、国内外のアーティストを招へいして、地域資源を活用したアーティスト・イン・レジデンスを行い、今まで気づかなかった地域の魅力の再発見に繋げていきます。

(2) 文化の力を活用した地域の活性化

地域の風土に根ざし、先人が守り伝えてきた様々な伝統文化や、地域固有の全国に誇りうる文化資源を改めて認識し、市町村、民間団体、NPO、大学等と連携しながら、特色ある文化資源や新たな創造活動等を活用し、文化の力による地域のにぎわいの創出を促進します。

(重点施策)

○地域固有の文化資源の掘り起こし

(略)

○文化による地域のイメージアップとにぎわい創出

文化を核とした地域づくりを推進するため、地域の文化資源を生かした取組を行っている団体やNPO等を支援します。また、アートイベントに必要な企画力、コーディネート力等のスキルを備えた人材育成などを通じ、文化による地域のにぎわい創出を図ります。

○国内外のアーティストの地域への受け入れ

地域の作家や住民、NPO、市町村などが主体となり、国内外のアーティストを招へいして、地域資源を活用したアートイベントやアーティスト・イン・レジデンス等を行い、今まで気づかなかった地域の魅力の再発見に繋げて

○美しく魅力ある景観づくりの推進

地域に残る歴史的な建造物や魅力ある町並み、美しい自然、調和の取れた集落や都市の景観は、人々の情緒・感性を豊かにし、潤いと安らぎを人々に与えます。

このような地域が誇る風景や自然、地域の特色ある生活などの文化資源を活用した美しく魅力ある景観づくりを推進します。

○歴史・自然を生かした豊かな「くらし文化」の振興

各地に伝わる祭り、行事、郷土料理など人々の生活により形作られてきた衣食住に関わる「くらし文化」は、本県の自然、歴史、伝統、また農業をはじめとする産業にも根ざした重要な資源であり、未来への継承に努めるとともに、その魅力を国内外へ発信していきます。

○国際的なアートイベントとの連携

国際的なアートイベントは、本県の文化シーンに新たな魅力を付け加え、国内外からの観光客の増加をもたらします。このため、アートイベントとの連携を十分に図るとともに、その効果が、県内に広く波及し、相乗効果が上がるよう取り組みます。

(3) 地域資源としての文化の積極的な活用

地域の文化資源に内在する先人の英知や創造性などを活用して、繊維産業・観光産業をはじめ、文化財等の情報を効果的に発信し、文化を通じて地域の魅力を高めます。

(重点施策)

○繊維産業の振興

伝統に基づくものづくり技術や豊かな感性を生かし、技術開発や人材育成、産地ブランド化を総合的に推進し、生活文化であるファッションに大きく寄与している繊維産業を伝統分野から高度先端分野まで幅広く対応できる産業へ飛躍させる取組を進めます。

いきます。

○美しく魅力ある景観づくりの推進 (略)

○歴史・自然を生かした豊かな「くらし文化」の振興 (略)

○国際的なアートイベントとの連携 (略)

(3) 地域資源としての文化の積極的な活用 (略)

(重点施策)

○繊維産業の振興 (略)

○観光産業の振興

伝統文化や産業文化遺産、建築文化遺産などの地域固有の文化資源を掘り起こし、新たな観光資源として積極的に活用することにより、魅力ある観光地づくりに努めます。

また、文化振興と観光振興部門の連携を図ることにより、地域文化の魅力を伝える観光や、観光PRを活用した地域文化の情報発信を促進します。

○文化財や歴史的建造物の観光振興等への活用

豊かな歴史を象徴する文化財や歴史的建造物などの文化遺産を、その特性や適切な保存に配慮しつつ、広く県民が親しむことができるよう公開・活用します。

また、有形・無形の文化資源を観光・産業振興等に活用するための取組を進めます。

○日本遺産の魅力発信

岡山県の歴史的的魅力にあふれた文化財や伝統文化をわかりやすくストーリー化した「日本遺産」の魅力を県内外に発信していくことにより、地域の活性化を図ります。

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

(1) 文化による連携・交流の促進

文化の交流を通じ、地域の文化活動の活発化や人々の相互理解を深めるため、県内各地の特色ある文化、伝統行事など地域の文化資源を活用した地域間交流や、世界の様々な地域の人々との交流を促進します。

(重点施策)

○文化ネットワークの形成

芸術家や、文化団体、NPO、ボランティアなどの文化に関わる多様な主体が活動できる環境をサポートするため、研修機会の充実を図るとともに、官民での情報交換や交流を通じて文化活動の運営や企画を支える人材の

○観光産業の振興

伝統文化や産業文化遺産、建築文化遺産などの地域ならではの文化資源を適切に保存・継承し、これらの文化資源や文化芸術イベントなど、地域の特色や魅力を生かした取組を行います。こうした取組を通じて、自然や文化をオンライン上の観光資源として、積極的な活用に努めます。

また、文化振興と観光振興部門の連携を図ることにより、地域文化の魅力を伝える観光や、観光PRを活用した地域文化の情報発信を促進します。

○文化財や歴史的建造物の観光振興等への活用

(略)

○日本遺産の魅力発信

本県の歴史的的魅力にあふれた文化財や伝統文化をわかりやすくストーリー化した「日本遺産」の魅力を県内外に発信していくことにより、地域の活性化を図ります。

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

(1) 文化による連携・交流の促進

文化の交流を通じ、地域の文化活動の活発化や人々の相互理解を深めるため、県内各地の特色ある文化、伝統行事など地域の特色ある文化資源を活用した地域間交流や、世界の様々な地域の人々との交流を促進します。

(重点施策)

○文化ネットワークの形成

(略)

ネットワークづくりを推進します。

また、アーツカウンシル・ネットワークなど全国各地にある団体とのつながりの場を活用しながら、先進事例の情報収集や情報共有を行います。

○国内文化交流の促進

世代や分野を超えた文化団体や人々の交流の広がりを通じて、県内外の文化交流や全国大会への参加を促進するとともに、文化関係の全国大会や中四国大会などの誘致を推進します。

○国際文化交流の促進

文化施設における外国語表記を充実させ、県内在住の外国人や外国人旅行者が本県の文化に親しみやすい環境づくりを推進します。

また、文化団体、NPO等が行う海外の芸術家によるアーティスト・イン・レジデンスの取組を支援します。

(2) 岡山からの文化発信

国内外における岡山の認知度を高めるため、メディア等の効果的な活用や人的交流を通じて、伝統文化から現代文化まで、多様な文化の魅力の国内外へ向けた積極的な発信を推進します。

(重点施策)

○文化情報のデジタル化、データベース化による情報発信

美術品や文化財など様々な文化に関する情報について、デジタル技術を活用したアーカイブ化による記録・保存に取り組むとともに、インターネット等を活用した情報発信を推進します。

○ソーシャルメディア等の活用による魅力発信

文化情報を集約するポータルサイトや、SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などを効果的に活用し、本県の文化資源や文化プログラムなどを積極的に国内外に情報発信します。

○国内文化交流の促進

(略)

○国際文化交流の促進

文化施設における外国語表記を充実させ、県内在住の外国人や外国人旅行者が本県の文化に親しみやすい環境づくりを推進します。

また、文化団体、NPO等が行う海外の芸術家による取組を支援します。

(2) 岡山からの文化発信

(略)

(重点施策)

○文化情報のデジタル化、データベース化による情報発信

(略)

○ソーシャルメディア等の活用による魅力発信

文化情報を集約するポータルサイトや、SNSなど、それぞれの媒体の特性を生かしながら、本県の文化資源や文化プログラムなどを効果的に国内外に情報発信します。

○おかやま独自の文化発信

本県の文化を積極的に発信する取組を通じ、県民に本県の魅力を再認識してもらうとともに、他県に在住している本県出身者の郷土愛を高め、岡山の文化の素晴らしさを共有できるよう努めます。

また、国内外における岡山の認知度を高め、県民が岡山の文化に愛着心と誇りが持てるような岡山ならではの文化発信に努めます。

Ⅵ 文化振興のための体制づくり

1 文化行政推進体制の充実

文化の分野の広がりや文化振興の多様化を踏まえ、県の各部局の緊密な連携・協力により、文化の総合的なコーディネーターとしての役割を担えるよう、総合的な文化振興を推進するとともに、文化活動の調査・分析などの支援に努めます。

また、岡山県郷土文化財団や岡山県文化連盟をはじめ、芸術家・文化団体・NPO・企業・大学・市町村など本県の文化を担う多様な主体との連携を一層強化していきます。

さらに、文化団体やアーティストなどの創造活動への支援やコーディネート、また、文化団体相互の連携を促進するため、岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」の充実、強化に取り組みます。

2 政策形成への民意の反映等

文化行政を推進する上で、県民の多様なニーズを把握することが重要であることから、文化の振興に関する施策形成や事業実施に際して、文化振興審議会の意見聴取、有識者等の積極的活用による県民の多様な意見の反映に努めます。

また、県全体の事業について選択と集中を図る中、文化振興の施策についても適切な評価を行い、支援の重点化と効率化を図る必要があることから、文化振興審議会の意見も聴きながら事業効果の把握に努め、各施策を評価し、事業実施に反映します。

○おかやま独自の文化発信

(略)

Ⅵ 文化振興のための体制づくり

(略)

おかやま文化振興ビジョン (2018～2028)

2025改訂版

(案)

令和7(2025)年2月

岡山県

[目 次]

I	ビジョン改訂に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	これまでの経緯と改訂の趣旨	
2	位置付け	
3	対象範囲	
4	期 間	
II	文化振興の基本的視点・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1	文化振興の基本的視点	
	(1) 自由な発想と主体的な文化活動の尊重	
	(2) 文化を創造し、享受することができる環境の整備	
	(3) 芸術家等の育成	
	(4) 県民の協働による文化の振興	
	(5) 将来の世代への文化の継承	
2	県の役割	
	(1) 県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり	
	(2) 県民文化の継承・発展	
	(3) 未来を創り、拓いていく担い手育成	
	(4) 「文化の力」の充実と活用	
	(5) 文化ネットワークの形成	
III	基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・	6
	「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」	
IV	基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・	7
1	文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山	
2	文化が地域の元気を生み出す岡山	
3	文化発信しながら交流を広げる岡山	
V	具体的施策・・・・・・・・・・・・・・・・	8
1	文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山・・・・・・・・	9
	(1) 将来の地域文化の担い手育成	
	(2) 県民参加による新たな文化の創造	
	(3) 県民の文化創造活動の振興	
	(4) 障害のある人の文化芸術活動の推進	

2	文化が地域の元気を生み出す岡山	13
	(1) 伝統文化の保存・継承・発展	
	(2) 文化の力を活用した地域の活性化	
	(3) 地域資源としての文化の積極的な活用	
3	文化発信しながら交流を広げる岡山	16
	(1) 文化による連携・交流の促進	
	(2) 岡山からの文化発信	
VI	文化振興のための体制づくり	18
1	文化行政推進体制の充実	
2	政策形成への民意の反映等	

I ビジョン改訂に当たって

1 これまでの経緯と改訂の趣旨

岡山県では、平成12（2000）年3月に21世紀を展望した「岡山県文化振興ビジョン」を策定し、平成18（2006）年3月には、県民の主体的な文化活動を尊重し、多様な主体との協働により、心豊かに生きることができる地域社会の実現を目指した「岡山県文化振興基本条例」を制定しました。そして、この条例制定を契機として、「おかやま文化振興ビジョン」を平成20（2008）年2月に新たに策定し、各種施策に取り組んできました。

また、県では、平成16（2004）年の「県立図書館」、平成17（2005）年の「天神山文化プラザ」、「ルネスホール」などの開館や「岡山県文化連盟」の創設などハード・ソフトの両面から施策を実施し、着実に成果を上げてきました。

さらに、平成22（2010）年秋に開催した「第25回国民文化祭・おかやま2010」（愛称：「あっ晴れ！おかやま国文祭」）では、これまで蓄積された岡山の文化を生かし、新しい文化の創造や発展に取り組むとともに、全国へ向けて岡山の文化を発信する大きな機会となりました。

一方、加速度的に進行している人口減少、特に急速な少子化の進行により、文化を担う人材の高齢化や、未来の地域文化を継承する人材の不足が顕在化しています。それに加え、文化活動の停滞を引き起こした新型コロナウイルス感染症の流行を原因とする、文化団体・文化人材の活動の停滞が継続するなど、文化を取り巻く社会情勢は劇的に深刻化しています。

令和7（2025）年度からの4年間の県政推進の羅針盤である「第4次晴れの国おかやま生き生きプラン」では、重点戦略として「安心して豊かさが実感できる地域の創造」を掲げ、その中で、文化活動に親しむ環境づくりなどを通じて、安心して豊かな心を育み、健やかな体力づくりを進めることができる地域の創造を目指すこととしています。

今回、こうした社会経済情勢等の変化を受け、あらためて浮かび上がった課題や取組等も踏まえながら、本県文化の一層の振興を図る施策を効果的に展開し、岡山の文化を揺るぎないものとして次世代へ継承し、発展させていくためにこのビジョンを改訂するものです。

2 位置付け

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第7条に定める「文化の振興に関する基本的な計画」としての役割を担うもので、長期的視点に立った今後の本県文化行政の施策の方向性を示すものです。

3 対象範囲

「文化」は様々に捉えられていますが、本ビジョンでは、岡山県文化振興基本条例に基づき、概ね次に掲げる芸術、生活文化、伝統文化などの各分野を対象としています。

さらに、文化の持つ力を活用した地域づくり・国際交流・産業振興・福祉・景観などの分野における取組も含めて検討しています。

(対象とする分野)

- ◇芸術（文学・音楽・美術・書道・写真・演劇・舞踊・工芸・デザインなど）、メディア芸術（映画・漫画・アニメーション・コンピュータなどを利用した芸術など）
- ◇生活文化（茶道・華道・囲碁・将棋・民芸・郷土料理・ファッションなど）、文字・活字文化
- ◇伝統文化（地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言など）

4 期 間

平成30（2018）年度から令和10（2028）年度までの11年間とします。

なお、令和4（2022）年度に中間見直しを、令和6（2024）年度に改訂を行い、内容を修正しています。

Ⅱ 文化振興の基本的視点

1 文化振興の基本的視点

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第3条に掲げた5つの基本理念を基本的な視点として策定します。

(1) 自由な発想と主体的な文化活動の尊重

文化の創造は、芸術家のみならず、すべての人の創造活動により実現するものです。こうした人間の自由な精神に基づいた多様な創造活動は、個人の生活の質を高め、その個性や創造性を引き出す原動力になります。

こうしたことから、県民一人ひとりの自由な発想と主体的な文化活動が尊重され、すべての人が自由な発想を持って活動することにより、文化が活性化され、より豊かで特色ある創造的な地域文化が生まれるという視点を幅広く共有することが重要です。

(2) 文化を創造し、享受することができる環境の整備

文化を創造し、享受することは、人々の生まれながらの権利です。県内どこに住んでいようと、誰もが等しく文化を創造し、享受することができる環境を整えていかななくてはなりません。

これまで、県内各地で公立文化施設等の整備が進められ、施設面では充実してきましたが、文化を享受する機会についてはまだ地域的に大きな開きがあります。

こうしたことから、文化に関する情報提供や各地域における文化を育む環境の整備を通じて、広く県民が様々な形の文化に触れ、文化の創造活動に参加できるとともに、創造性や個性を発揮しやすい環境をつくることが重要です。

(3) 芸術家等の育成

多様で優れた文化を創造し、継承し、発展させていくためには、文化に関する創造活動に携わる芸術家をはじめ、文化施設や文化団体で企画・研究等を行う学芸員やアートマネジメント^{※1}担当者、文化財等の保存技術保持者や研究者、伝統芸能の伝承者などの活動と相互の連携が欠かせません。

こうしたことから、これらの人々が活動成果を発表する機会の確保に加えて、文化に関する幅広い人材の育成・活用や資質向上のための研修等の充実を図ることが重要です。

※1 アートマネジメント：文化施設の運営や文化団体の活動、あるいは、文化関係の催しに対し効果的で大きな成果をあげるための活動の総称。具体的には、企画制作、管理関係業務、広報活動、持続的に活動するための組織経営などが含まれます。

(4) 県民の協働による文化の振興

文化は、地域の魅力を創造し、豊かな地域づくりの礎になるとともに、人々に精神的な豊かさや感動を与え、生きる力と喜びをもたらすなど、様々な面で私たちの生活を支えているものです。

文化の持つこのような力を人づくりや地域づくり、さらには地域産業の活性化に生かしていくことが必要です。

また、文化活動を行うNPO等の増加、大学と地域の連携、文化活動を支援する企業のメセナ活動など、行政以外の分野でも様々な取組が広がりつつあります。

こうしたことから、県民・文化団体・NPO・企業・大学など、様々な主体と行政が、目標を共有しながら、その目標に向かって、ともに力を合わせて活動する文化の振興を進めていくことが重要です。

(5) 将来の世代への文化の継承

地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言などの伝統文化は、人々の暮らしや生き方を支える基盤であるとともに、全国・世界に誇りうる貴重な財産です。また、これらの伝統文化は県民の誇りと心のよりどころであり、県民の活力を高め、新しい価値を創造する源であるとともに、将来の地域発展の基礎となるものです。

こうしたことから、県内各地の個性ある伝統文化や埋もれた文化資源を掘り起こし、県民共有の財産として尊重し、将来の世代に伝えていくことが重要です。

2 県の役割

県の役割は、地域における文化振興の総合的なコーディネーターとして、芸術家等の育成支援や、県民や民間団体等の主体的な文化活動が活発に行われるような環境づくりを図るとともに、**子どもや若者をはじめとしたあらゆる人々が文化に親しみ、参画することで地域に文化が育まれる風土を醸成し、文化活動の成果が魅力的な地域づくりに生かされるよう努めていくことです。**

このため、公益社団法人岡山県文化連盟（以下「**岡山県文化連盟**」という。）に設置した「**おかやま文化芸術アソシエイツ**」^{※2}の機能も活用しながら、次の役割に重点を置き、施策を推進していきます。

※2 おかやま文化芸術アソシエイツ：岡山県と岡山県文化連盟が同連盟内へ設置した、県内の文化団体等の活動支援やコーディネート、相談業務等を行う**文化に関する総合窓口**です。

(1) 県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり

多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、文化活動に参加できる環境づくりや、県民が文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

(2) 県民文化の継承・発展

これまで蓄積されてきた岡山の伝統的文化を取り入れながら、世代や分野を超えた新しい文化が創造され発展するよう取り組んでいくとともに、社会経済情勢等の変化により、文化芸術を取り巻く環境がどのような影響を受けても、岡山の文化を揺るぎないものとして次世代へ継承し、発展させていくよう努めます。

(3) 未来を創り、拓いていく担い手育成

将来の岡山の文化を担う子どもや若者らが、様々な文化に興味を持ち、親しみながら、文化活動に参加できる環境づくりを進め、文化活動の裾野の拡大を図るとともに、地域文化の担い手の育成を推進します。

さらに、未来を創り、拓いていく若手芸術家の育成にも努めます。

(4) 「文化の力」の充実と活用

文化の持つ「人々を感動させ魅了する力」、「地域の魅力や価値を高める力」等に着目し、その力を高めて地域づくり・産業振興・福祉などに生かし、地域の活性化に努めます。

(5) 文化ネットワークの形成

文化の持つ力を高め、文化活動を活発化させるため、人・もの・地域・情報を結びつける仕組みづくりに努めます。

Ⅲ 基本目標

「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」

岡山県は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、古代吉備からの長い歴史を通じて、人・もの・情報が活発に行き交う水陸の交通の要衝として栄えてきました。

そうした中で、先人が育み守り伝えてきた独自の文化と、時代ごとに新たに創造された文化とが交流し、融合する中で、岡山の文化を形成してきました。

今また、県民の自主的な文化活動や幅広い交流を図ることで、新しい文化が生み出されようとしています。

県民一人ひとりが岡山の文化に愛着心と誇りを持ち、県民の協働によって岡山の文化を継承・創造・発信しながら発展させていきます。そして、その豊かで特色ある岡山の文化が人々の心の豊かさや活力を一層向上させます。このような好循環が県民の自由な発想と活発な文化活動によって生み出され、岡山の文化の質がさらに高まっていくことを目指します。

Ⅳ 基本方針

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

県民一人ひとりが文化を創造し、楽しみ、感動する機会を平等に得られることが大切です。そのためには、あらゆる県民が居住地域にかかわらず、創作活動に参加したり、鑑賞体験できる機会を充実させることが必要です。

また、若手芸術家への支援や文化サポーター^{※3}の育成など、文化を創造し、支える人材の育成を図る必要があります。

このため、多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、各地域で文化の伝承・創造活動に参加できる環境づくりや、文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

文化の持つ力は、県民の自信と活力を高め、新しい価値を創造する源であり、豊かな地域づくりに欠かすことができません。

また、地域固有の歴史と風土の中で育まれてきた伝統文化や、歴史的なまちなみ、集落や都市の景観、自然環境等は、県民の誇りと心のよりどころであり県民共有の財産です。

文化の持つ力でこれらの地域の魅力や価値をさらに掘り起こし、地域の特色や魅力を生かした取組を展開することで、観光や地域産業の活性化など、豊かな地域づくりにも文化の力を生かしていきます。

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

古くから交通の結節点となって栄えてきた岡山の歴史が語るように、人・もの・情報が活発に行き交う時代と地域にあってこそ多様な文化が融合し、向上し、新しい文化が育まれます。

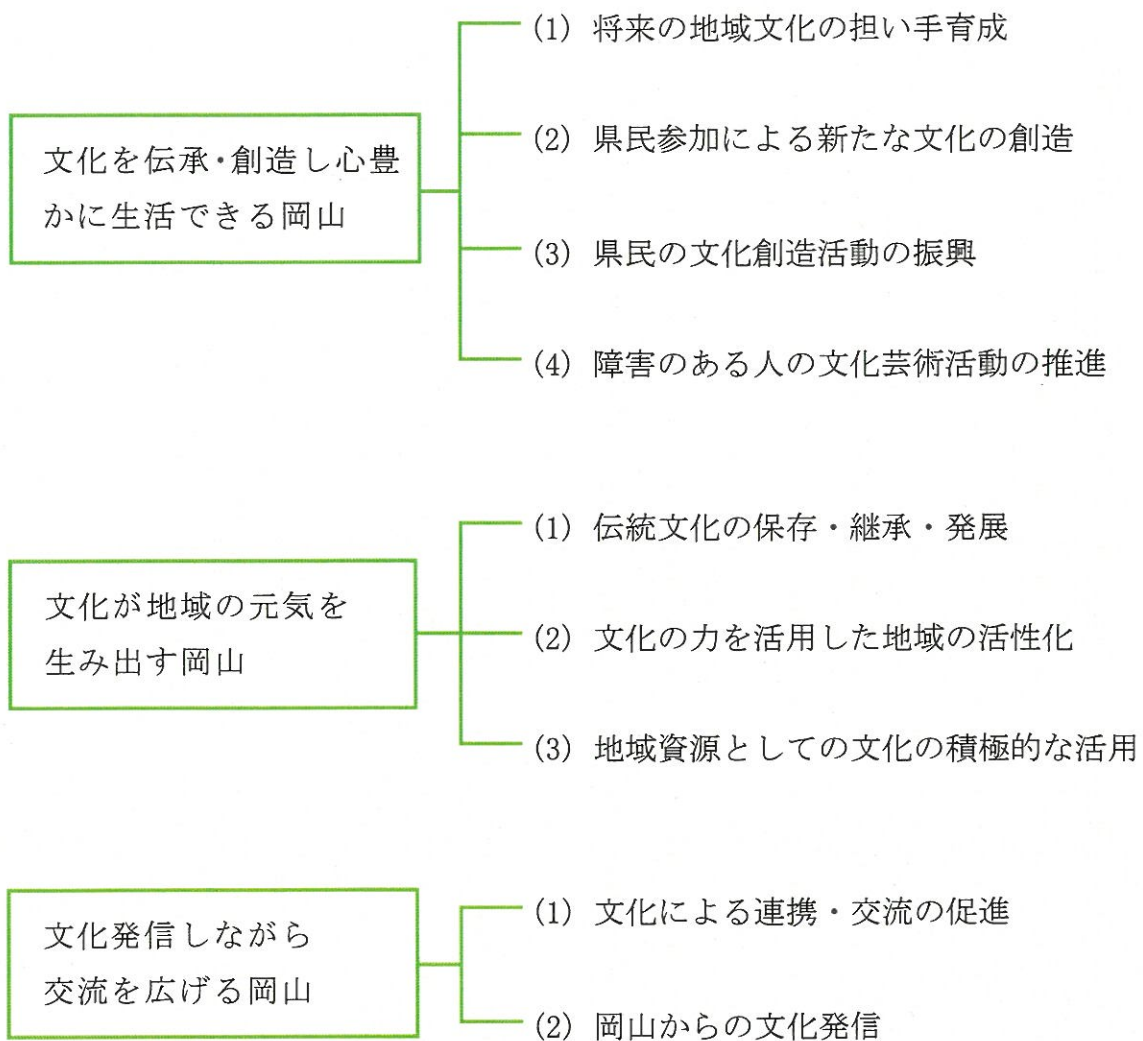
また、地域固有の文化は、人々の心を結びつけ、相互理解と連携を深める上で重要な役割を果たすとともに、郷土への愛着心を育みます。

このようなことから、それぞれの分野で活動する文化団体等がお互いに幅広い交流を行い、連携を深められるよう努めるとともに、岡山の魅力を伝える文化の積極的な発信と多様な文化の受信に取り組みます。

※3 文化サポーター：文化活動に主体的に参画する人や、文化イベントの支援を行うボランティアなど、文化活動に関与する県民を広く総称するものです。岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」において、文化サポーターの育成・支援や、相互のネットワークの構築を進めています。

V 具体的施策

(施策体系)



1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

(1) 将来の地域文化の担い手育成

学校や地域において、子どもや若者が本物の文化に触れ、豊かな感性や創造性を育む機会を充実することにより、次世代の文化の担い手となる、心豊かな子どもや若者の育成を図ります。

(重点施策)

○郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実

岡山ゆかりの人物をわかりやすく紹介するガイドブックや文化財めぐりに便利なマップ等の作成、文化財に関する情報の整理・充実、インターネット等を活用した発信など、子どもや若者が、郷土の歴史や有形・無形の文化財に親しむ機会の充実を図ります。

○学校教育における文化活動の充実

「総合的な学習（探求）の時間」など様々な学習機会の場においてインターネット等もうまく活用しながら、芸術や伝統文化等に親しむ教育の充実や、児童生徒が発表する機会や優れた文化を鑑賞する機会の充実を図ります。

また、学校の各教科等の授業の活性化を図るため、音楽や美術等の指導を行う教員の資質向上を図るとともに、優れた地域の芸術家や文化活動の指導者などと教員が協力して、様々なプログラムを作成し指導ができる取組を促進し、学校における芸術教育や文化活動の充実を図ります。

○子どもや若者の文化活動の充実

民間団体等と連携しながら、子どもや若者を対象とした文化活動の場や機会の充実を図ります。また、文化・芸術の指導者や民俗芸能・伝統工芸などの継承者を講師とする学校出前講座の実施や、美術館、博物館などの文化施設や文化団体等によるアウトリーチ活動^{※4}の充実を図るなど、優れた文化芸術に実際に触れる機会を創出することで、未来を担う子どもや若者の文化に対する豊かな感性を育む取組を促進します。

なお、学校の文化部活動の地域移行等については、将来にわたって生徒が継続的に文化芸術活動に親しめるよう地域クラブ活動の充実に取り組みます。また、移行に向けては、指導者や活動場所の確保、生徒・保護者などの理解を促進するための効果的な周知・広報の実施等、市町村や地域の文化芸術団体等の関係者と連携した取組を推進します。

※4 アウトリーチ活動：アウトリーチの本来の意味は、手を伸ばすこと。日頃、文化に触れる機会が少ない人々へ文化施設などが館外で行う普及活動をいいます。

○教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実

子どもに文化に関する指導を行う教員の資質の向上を図るため、県立博物館、県立美術館、古代吉備文化財センターなどの県立文化施設を活用した研修の充実を図ります。また、次代を担う学生等が多様な文化に触れる機会を増やし、心豊かで、地域への誇りと愛着心の醸成につながるような研修機会の充実を図ります。

○芸術系専門学科を有する高校や大学との連携

県立文化施設と県内の芸術系専門学科を有する高校や大学が、部活動、職場実習、出前講座などによる連携を通じ、新たな文化活動の創出、ネットワークの構築を図ります。

(2) 県民参加による新たな文化の創造

県民による文化活動の充実を図るため、文化活動を担う人材及び団体等の育成及び活用に努めます。また、次世代を担う新進芸術家が活動成果を発表する機会の充実に努めます。

(重点施策)

○岡山県文化連盟の機能強化

岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」は、県内の文化団体等への相談・支援等の取組に大きな役割を果たしており、引き続き、文化団体やアーティストなどの創造活動への支援やコーディネート、また、文化団体相互の連携を促進する総合窓口としての機能の充実、強化を図ります。

○文化団体への活動支援

岡山県文化連盟、公益財団法人岡山県郷土文化財団(以下「岡山県郷土文化財団」という。)等と連携して、県内の文化団体が自らのレベルアップや活動の継続を支援するとともに、国や各種団体の各種助成制度等についての情報提供に努めます。

○アートマネジメントの推進

文化施設・文化団体の担当者、舞台技術者、学芸員などを対象に、企画制作、広報等資質向上のための研修や交流機会の充実を図ります。

また、地域における文化活動を支えていけるよう、企画、制作、演出などができる人材を育成するとともに、その人材を民間団体、NPO等が有効に活用できるような仕組みを構築します。

○文化サポーターの育成

県内各地で展開される、分野や世代を超えた活発な文化活動を様々な形でサポートする人材を育成、活用し、今後の充実した文化活動へと結びつけます。

○芸術家等の創造活動への支援

地元の芸術家等による創造活動を支援するため、市町村や地域住民と協力しながら、おかやま県民文化祭をはじめとした活動の場の充実に努めます。

また、次の世代を担う若手芸術家を育成するため、新進美術家を対象とした岡山県新進美術家育成「I氏賞」を活用するなど本県ゆかりの若手芸術家の発表の場を提供するよう努めます。

(3) 県民の文化創造活動の振興

広く県民が、身近なところで文化についての理解及び関心を高め、質の高い文化を鑑賞するとともに、文化の創造活動に参加できるような環境の整備を進め、優れた地域文化の形成に努めます。

(重点施策)

○文化施設の利用促進・機能強化

県立美術館、県立博物館、天神山文化プラザ、ルネスホール、県立図書館、県立記録資料館などの文化施設の利用促進に努めるとともに**コロナ禍**により培った経験等も踏まえ、安全で安心して過ごすことができる環境を整えます。

また、すべての人々に利用しやすく多様なサービスを効率的に提供できる地域の文化の拠点となるよう、学芸員や職員の研修の充実、資料のデジタル化、外国語表記の充実など、様々な手法を活用し文化施設の機能強化を図ります。

さらに、県民が身近に文化活動を行うことができる場の充実に図るため、学校の空き教室や廃校施設、歴史的建造物、公共空間、商店街の空き店舗等、地域の文化資源についても、県民や地域の文化関係者の文化活動への幅広い利用を促進します。

○質の高い美術や舞台芸術等の鑑賞機会の提供

広く県民が多様な文化に親しみ新しい価値に出会うことができるよう、県立美術館、県立博物館等においては、郷土ゆかりの資料の収集に努め、充実した展示を行うとともに、多くの人が文化に気軽に親しみ鑑賞できる企画展を開催します。

また、国や公益法人等が行う支援制度の活用や民間団体、NPO等による公演等への支援を通じて多くの県民が国内外の質の高い美術や舞台芸術等を鑑賞できる機会の充実に図るとともに、デジタルアートなど、新しい分野の鑑賞

機会の提供にも取り組みます。

さらに、社会のデジタル化が急速に進展していることを踏まえ、あらゆる人々が、文化芸術に興味・関心を持つきっかけとなるよう、オンライン配信はもとより、VR（仮想現実）、AR（拡張現実）などの先端技術の活用も検討します。

○文化に関する情報提供の充実

文化の情報拠点機能を持つ天神山文化プラザ等において、各種文化情報の収集に努めるとともに、その情報は、**新聞やテレビ、ラジオなどのマスメディアや、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）**等を用いて広く県内外に対し発信します。

また、県内の文化団体や文化施設等が持つ情報を総合的に集約・発信し、誰もが本県の文化に関する情報を容易に入手できるよう、ホームページや**SNS等**の内容を充実させる**など**、効果的な情報提供に努めます。

○おかやま県民文化祭の充実

県民の文化への関心や、県内各地の文化活動の取組を根付かせ、伝統ある地域文化や新たに創造された特色ある文化を県民が身近に感じられる機会を提供するため、県民との協働によるおかやま県民文化祭の充実に努めます。

（４）障害のある人の文化芸術活動の推進

障害のある人が文化に親しむことは、交流の拡大・生きがい・生活の充実等につながるものです。障害のある人が、文化芸術活動を行い、鑑賞することのできる環境づくりに取り組みます。

（重点施策）

○障害のある人の文化芸術活動の推進

障害のある人が、自身の文化芸術活動を発表する場の充実を図るとともに、障害の有無にかかわらず文化に親しみ、障害のある人となない人が共に文化芸術活動を行うことができる環境づくりに努めます。

○文化施設での字幕・音声案内サービスの提供等

博物館、美術館等における文化公演や展示等において、字幕や音声案内サービスの提供等、障害のある人のニーズに応じた**合理的**配慮が提供されるように努めます。

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

本県には、「岡山後楽園」「吉備津神社」「旧閑谷学校」などの文化財や、「備前焼」「備前刀」などの伝統工芸、「備中神楽」「白石踊」「横仙歌舞伎」などの伝統芸能など全国に誇る豊かな伝統文化があります。

このような穏やかで恵み豊かな自然・風土が、古代吉備以来、各時代に多彩な文化を育んできた本県の歴史を物語る文化遺産を、県民共有の財産として適切に保存し、その中に含まれる先人の知恵を汲み出し、本質を学び、そして次世代に継承するとともに、今に生きる文化として発展させ、積極的な活用を図ります。

(重点施策)

○民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用

地域の祭り、民俗芸能、伝統行事、伝統工芸技術、先人が日常生活の中で伝えてきた知恵などを保存・継承をするための調査や記録保存、発信を推進するとともに、伝統工芸展や民俗芸能の祭典等の発表機会への参加促進や、後継者の育成、保存団体のネットワーク化を推進します。

○古代吉備文化遺産の保存・活用

古代吉備の豊かな文化遺産を体感できるよう、文化遺産の特性や適切な保存に配慮しつつ、積極的な活用を行い、県民が歴史や文化に触れ、親しむ機会を充実します。そのため、県・市町村が連携して、主要な遺跡や建造物等の文化遺産の保存・活用を図ります。

さらに、地域の文化財保護団体との連携によるボランティアの育成・活用など、文化財保護活動の充実を図ります。

○郷土の誇る先人顕彰の推進

様々な分野における郷土の先人の功績をたたえ次世代に伝え、学びや新たな創造を促すため、先人の功績の記録・顕彰、遺品・資料・作品の収集及び公開を推進します。

○ユネスコ無形文化遺産登録活動の支援

「日本の書道文化」など、後世に伝えていくべき無形文化を、ユネスコ無形文化遺産に登録する活動の支援に努めます。

（２）文化の力を活用した地域の活性化

地域の風土に根ざし、先人が守り伝えてきた様々な伝統文化や、地域固有の全国に誇りうる文化資源を改めて認識し、市町村、民間団体、NPO、大学等と連携しながら、特色ある文化資源や新たな創造活動等を活用し、文化の力による地域のにぎわいの創出を促進します。

（重点施策）

○地域固有の文化資源の掘り起こし

伝統文化、優れた景観、地域の歴史を素材とした文化活動などは、再評価や有効活用により、地域を特徴づけるシンボルとなります。

このような県内各地に存在する特色ある文化資源を幅広く掘り起こし、ブランド化を図り、地域づくりに生かしていきます。

○文化による地域のイメージアップとにぎわい創出

文化を核とした地域づくりを推進するため、地域の文化資源を生かした取組を行っている団体やNPO等を支援します。また、アートイベントに必要な企画力、コーディネート力等のスキルを備えた人材育成などを通じ、文化による地域のにぎわい創出を図ります。

○国内外のアーティストの地域への受け入れ

地域の作家や住民、NPO、市町村などが主体となり、国内外のアーティストを招へいして、地域資源を活用したアートイベントやアーティスト・イン・レジデンス※⁵等を行い、今まで気づかなかった地域の魅力の再発見に繋がっていきます。

○美しく魅力ある景観づくりの推進

地域に残る歴史的な建造物や魅力ある町並み、美しい自然、調和の取れた集落や都市の景観は、人々の情緒・感性を豊かにし、潤いと安らぎを人々に与えます。

このような地域が誇る風景や自然、地域の特色ある生活などの文化資源を活用した美しく魅力ある景観づくりを推進します。

○歴史・自然を生かした豊かな「暮らし文化」※⁶の振興

各地に伝わる祭り、行事、郷土料理など人々の生活により形作られてきた衣

※5 アーティスト・イン・レジデンス：アーティストを招聘し、滞在期間中に作品を制作してもらうこと、また、それらの活動を支援することをいいます。

※6 暮らし文化：瀬戸内海に面した岡山ならではのばら寿司や、備中杜氏の技術に支えられた酒などの食文化、各地に伝わる特色ある伝統行事などをいいます。

食住に関わる「くらし文化」は、本県の自然、歴史、伝統、また農業をはじめとする産業にも根ざした重要な資源であり、未来への継承に努めるとともに、その魅力を国内外へ発信していきます。

○国際的なアートイベントとの連携

国際的なアートイベントは、本県の文化シーンに新たな魅力を付け加え、国内外からの観光客の増加をもたらします。このため、アートイベントとの連携を十分に図るとともに、その効果が、県内に広く波及し、相乗効果が上がるよう取り組みます。

(3) 地域資源としての文化の積極的な活用

地域の文化資源に内在する先人の英知や創造性などを活用して、繊維産業・観光産業をはじめ、文化財等の情報を効果的に発信し、文化を通じて地域の魅力を高めます。

(重点施策)

○繊維産業の振興

伝統に基づくものづくり技術や豊かな感性を生かし、技術開発や人材育成、産地ブランド化を総合的に推進し、生活文化であるファッションに大きく寄与している繊維産業を伝統分野から高度先端分野まで幅広く対応できる産業へ飛躍させる取組を進めます。

○観光産業の振興

伝統文化や産業文化遺産、建築文化遺産などの地域ならではの文化資源を適切に保存・継承し、これらの文化資源や文化芸術イベントなど、地域の特色や魅力を生かした取組を行います。こうした取組を通じて、自然や文化をオンライン上の観光資源として、積極的な活用に努めます。

また、文化振興と観光振興部門の連携を図ることにより、地域文化の魅力を伝える観光や、観光PRを活用した地域文化の情報発信を促進します。

○文化財や歴史的建造物の観光振興等への活用

豊かな歴史を象徴する文化財や歴史的建造物などの文化遺産を、その特性や適切な保存に配慮しつつ、広く県民が親しむことができるよう公開・活用します。

また、有形・無形の文化資源を観光・産業振興等に活用するための取組を進めます。

○日本遺産の魅力発信

本県の歴史的的魅力にあふれた文化財や伝統文化をわかりやすくストーリー

化した「日本遺産^{※7}」の魅力を県内外に発信していくことにより、地域の活性化を図ります。

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

(1) 文化による連携・交流の促進

文化の交流を通じ、地域の文化活動の活発化や人々の相互理解を深めるため、県内各地の特色ある文化、伝統行事など地域の特色ある文化資源を活用した地域間交流や、世界の様々な地域の人々との交流を促進します。

(重点施策)

○文化ネットワークの形成

芸術家や、文化団体、NPO、ボランティアなどの文化に関わる多様な主体が活動できる環境をサポートするため、研修機会の充実を図るとともに、官民での情報交換や交流を通じて文化活動の運営や企画を支える人材のネットワークづくりを推進します。

また、アーツカウンシル・ネットワーク^{※8}など全国各地にある団体とのつながりの場を活用しながら、先進事例の情報収集や情報共有を行います。

○国内文化交流の促進

世代や分野を超えた文化団体や人々の交流の広がりを通じて、県内外の文化交流や全国大会への参加を促進するとともに、文化関係の全国大会や中四国大会などの誘致を推進します。

○国際文化交流の促進

文化施設における外国語表記を充実させ、県内在住の外国人や外国人旅行者が本県の文化に親しみやすい環境づくりを推進します。

また、文化団体、NPO等が行う海外の芸術家による取組を支援します。

※7 日本遺産：文化・伝統を語るストーリーを文化庁が「日本遺産」として認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を総合的かつ一体として活用し、地域活性化を図ることを目的としています。

※8 アーツカウンシル・ネットワーク：独立行政法人日本芸術文化振興会と全国各地のアーツカウンシル機能（専門家による助言、審査、評価、調査研究等の機能）を有する組織である「地域アーツカウンシル」の連携・交流ネットワークです。それぞれの課題やノウハウを共有することで、連携を促進し、わが国の地域における文化芸術の推進体制の構築、発展を図ることを目的としています。おかやま文化芸術アソシエイツは、アーツカウンシル・ネットワークに加入しています。

（２）岡山からの文化発信

国内外における岡山の認知度を高めるため、メディア等の効果的な活用や人的交流を通じて、伝統文化から現代文化まで、多様な文化の魅力の国内外へ向けた積極的な発信を推進します。

（重点施策）

○文化情報のデジタル化、データベース化による情報発信

美術品や文化財など様々な文化に関する情報について、デジタル技術を活用したアーカイブ化による記録・保存に取り組むとともに、インターネット等を活用した情報発信を推進します。

○ソーシャルメディア等の活用による魅力発信

文化情報を集約するポータルサイトや、SNSなど、**それぞれの媒体の特性を生かしながら**、本県の文化資源や文化プログラムなどを**効果的に**国内外に情報発信します。

○おかやま独自の文化発信

本県の文化を積極的に発信する取組を通じ、県民に本県の魅力を再認識してもらうとともに、他県に在住している本県出身者の郷土愛を高め、岡山の文化の素晴らしさを共有できるよう努めます。

また、国内外における岡山の認知度を高め、県民が岡山の文化に愛着心と誇りが持てるような岡山ならではの文化発信に努めます。

Ⅵ 文化振興のための体制づくり

1 文化行政推進体制の充実

文化の分野の広がりや文化振興の多様化を踏まえ、県の各部局の緊密な連携・協力により、文化の総合的なコーディネーターとしての役割を担えるよう、総合的な文化振興を推進するとともに、文化活動の調査・分析などの支援に努めます。

また、岡山県郷土文化財団や岡山県文化連盟をはじめ、芸術家・文化団体・NPO・企業・大学・市町村など本県の文化を担う多様な主体との連携を一層強化していきます。

さらに、文化団体やアーティストなどの創造活動への支援やコーディネート、また、文化団体相互の連携を促進するため、岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」の充実、強化に取り組みます。

2 政策形成への民意の反映等

文化行政を推進する上で、県民の多様なニーズを把握することが重要であることから、文化の振興に関する施策形成や事業実施に際して、文化振興審議会の意見聴取、有識者等の積極的活用による県民の多様な意見の反映に努めます。

また、県全体の事業について選択と集中を図る中、文化振興の施策についても適切な評価を行い、支援の重点化と効率化を図る必要があることから、文化振興審議会の意見も聴きながら事業効果の把握に努め、各施策を評価し、事業実施に反映します。

Ⅶ 文化振興ビジョンにおける成果指標

【基本方針】

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	現状値 R 5 年度実績 (2023)	目標値 R 9 年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
文化施設利用者数	483,612人	402,730人	419,000人	505,000人
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館及び開谷学校の利用者数				

【重点施策】

(1) 将来の地域文化の担い手育成

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	現状値 R 5 年度実績 (2023)	目標値 R 9 年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
学校行事で県立美術館を訪れた人数	3,661人	2,592人	2,500人	2,600人
(説明)授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数				
子どもみらい塾講師派遣回数	406回	300回	530回	530回
(説明)岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数				
優れた芸術を鑑賞した学校数《累計》	668校 (～H28)	1,614校 (～R5)	1,800校 (～R9)	2,000校 (～R10)
(説明)県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累計				
アウトリーチ活動実施回数	39回	28回	29回	29回
(説明)県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数				

(2) 県民参加による新たな文化の創造

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	現状値 R 5 年度実績 (2023)	目標値 R 9 年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数《累計》	—	714件 (～R5)	1,000件 (～R9)	1,000件 (～R10)
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツ(H29.7.31設立)への相談件数の累計				
県が実施するアートマネジメント講座修了者数《累計》	69人 (～H28)	151人 (～R5)	220人 (～R9)	220人 (～R10)
(説明)県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計				

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	現状値 R 5 年度実績 (2023)	目標値 R 9 年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
県立美術館ボランティア数	89人	100人	100人	110人
(説明)県立美術館に登録しているボランティア数				
岡山県美術展覧会への応募点数	3,296点	2,130点	3,300点	3,300点
(説明)岡山県美術展覧会へ一般応募された作品(日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻)の点数				

(3) 県民の文化創造活動の振興

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	現状値 R 5 年度実績 (2023)	目標値 R 9 年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
文化施設利用者数【再掲】	483,612人	402,730人	419,000人	505,000人
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数				
「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	30.2%	31.0%	38.0%	【削除】
(説明)県民満足度調査「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合				
県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数	25,697件	83,993件	51,000件	143,000件
(説明)県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数				
県民文化祭参加者数	370,978人	401,223人	215,000人	215,000人
(説明)おかやま県民文化祭への総参加者数				
おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数	—	174件	190件	190件
(説明)おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数				
文化芸術に関わった(自ら実践・直接鑑賞した)人の割合【新規】	—	42.4% (R6調査値)	43.9%	45%
(説明)文化芸術に関わった(自ら実践・直接鑑賞した)人の割合				

【基本方針】

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	現状値 R 5 年度実績 (2023)	目標値 R 9 年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
地域の特色や魅力を生かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数《累計》	69人 (~H28)	665人 (~R5)	950人 (~R9)	950人 (~R10)
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツが実施するアートマネジメント研修受講者数と県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計				

【重点施策】

(1)伝統文化の保存・継承・発展

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	現状値 R 5 年度実績 (2023)	目標値 R 9 年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
日本伝統工芸展への応募点数	116点	52点	70点	70点
(説明)日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数				
登録文化財の登録件数《累計》	275件 (~H28)	359件 (~R5)	367件 (~R9)	419件 (~R10)
(説明)登録文化財の登録件数の累計				

(2)文化の力を活用した地域の活性化

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	現状値 R 5 年度実績 (2023)	目標値 R 9 年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
県民文化祭地域フェスティバル実行委員会への参加団体数	118団体	310団体	270団体	310団体
(説明)おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)の実行委員会に参加した団体数				
県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業の1事業当たりの平均参加者数	—	530人	4,400人	【削除】
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業の1事業当たりの平均参加者数				

【基本方針】

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	現状値 R 5 年度実績 (2023)	目標値 R 9 年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
文化施設ホームページアクセス件数	360,035件	1,438,303件	1,039,000件	1,142,000件
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館のホームページアクセス件数				

【重点施策】

(1)文化による連携・交流の促進

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	現状値 R 5 年度実績 (2023)	目標値 R 9 年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
文化に関わる人々のネットワークづくりのためのワークショップ等受講者数《累計》	—	1,088人 (～R5)	1,500人 (～R9)	1500人 (～R10)
(説明)おかやま文化芸術アソシエーツが実施する文化に関わる人々のネットワークづくりのためのレクチャー・ワークショップ(H29年度開始)受講者数の累計				
国民文化祭への派遣団体数	8団体	4団体	10団体	10団体
(説明)国民文化祭への派遣団体数				

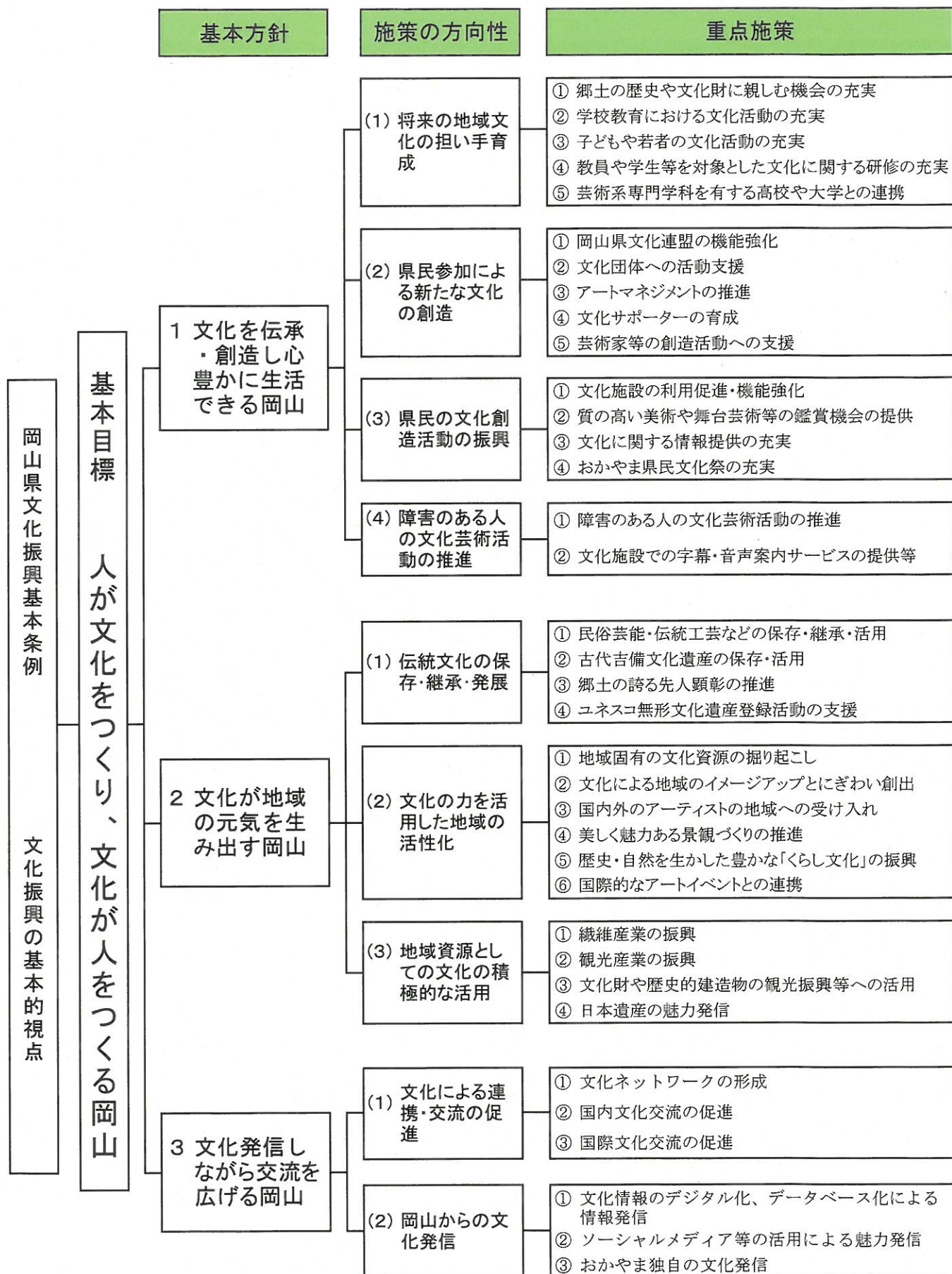
(2)岡山からの文化発信

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	現状値 R 5 年度実績 (2023)	目標値 R 9 年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数【再掲】	25,697件	83,993件	51,000件	143,000件
(説明)県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数				
県立美術館インスタグラムのフォロワー数《累計》	—	4,076人 (～R5)	5,000人 (～R9)	7,000人 (～R10)
(説明)県立美術館のインスタグラム(H30年度開設)のフォロワー数の累計				

【参考指標】

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	現状値 R 5 年度実績 (2023)	目標値 R 6 年度 (2024)	目標値 R10年度 (2028)
外国人延べ宿泊者数	133,082人	331,710人	487,000人	620,000人
(説明)観光庁「宿泊旅行統計調査」(暦年調査)による外国人延べ宿泊者数				
観光入込客数	1,433万人	1,566万人	1,600万人	1,759万人
(説明)観光庁「観光入込客統計」(暦年調査)による観光入込客数				
後楽園の入園者数	744,039人	781,575人	850,000人	900,000人
(説明)後楽園の入園者数				

1) おかやま文化振興ビジョン(2018-2028) 2025改訂版 体系図



文化振興ビジョンの成果指標について

今回のビジョン改訂は、第 4 次晴れの国おかやま生き生きプランの策定に伴うものであり、ビジョンにおける成果指標についても 4 次プラン策定に伴う最小限の変更とする。

また、計画期間を 1 年延長に伴う目標値（令和 10 年度）についても、原則、令和 9 年度の目標値を据え置く又は上方修正したものとする。

1 成果指標の改廃（4 次プラン策定に伴う）

○新規（1 指標）

- ・文化芸術に関わった（自ら実践・直接鑑賞した）人の割合

○削除（2 指標）

- ・「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合

（廃止理由）

- ・文化とスポーツが混在している指標であること、今回、文化単独での指標を新設することから、今回廃止
- ・県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業の 1 事業当たりの平均参加者数
（廃止理由）
 - ・事業の見直しにより、県として「アーティスト・イン・レジデンス事業」を実施しないこととなったことから、今回廃止

○継続（23 指標）

- ・上記以外の全ての指標（参考指標（3 指標）を含む）

2 継続する成果指標の目標値

○上方修正（9 指標）

- ・文化施設利用者数
- ・学校行事で県立美術館を訪れた人数
- ・優れた芸術を鑑賞した学校数《累計》
- ・県立美術館ボランティア数
- ・県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数
- ・登録文化財の登録件数《累計》
- ・県民文化祭地域フェスティバル実行委員会への参加団体数
- ・外国人旅行者宿泊者数
- ・観光入込客数
- ・後樂園の入園者数

○現目標値を据え置く指標（14 指標）

- ・上記以外の全ての指標（参考指標（3 指標）を含む）

フリーディスカッション テーマ

子どもが文化に接する機会のさらなる確保に向けて

【関係する県事業】

- ・ おかやま子ども未来塾事業
(文化への関心をもつきっかけづくりとするため、文化芸術の指導者を学校に派遣する事業)
- ・ 夏休み文化体験大集合！！
(地域のアーティストを講師として、子どもを対象とした各種講座やイベントを開催する事業)
- ・ 学校と美術館の連携事業
(学校団体の観覧受け入れや、学校への出前授業を開催する等の事業)

フリーディスカッションは、前向きな議論や様々な情報交換の場として実施するものです。将来を踏まえた中長期的な観点でご発言いただくことを基本とし、必ずしも結論を出すことを目的とするものではありません。